JAPIA 統一データシートマニュアル

2020/10/01

JAPIA シート連絡会

目次

1 はじめに 3
1.1 この文書の目的 3
1.2 対象とする読者 3

2 ご利用の前に 4
2.1 必要なシステム 4
2.1.1 ハードウェア 4
2.1.2 ソフトウェア 4
2.2 必要なファイル 5
2.2.1 JAPIA シート本体 5
2.2.2 外部リストファイル 5
2.3 JAPIA シートの構成 6
2.3.1 表紙 6
2.3.2 入力帳票 7
2.3.3 入力要領 8
2.3.4 MESSAGE 9

3 データを入力する(入力帳票にデータを入力) 10
3.1 入力帳票各部の名称 10
3.2 入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領) 14
3.3 基本情報を入力する 16
3.4 「構成材料・化学物質情報」表を入力する 16
3.4.1 データ階層構造と行 16
3.4.2 入力が不要な列を明示する(不要項目フラグ) 20
3.4.3 項目別解説 21
3.4.3.1 連番 21
3.4.3.2 納入部品 22
3.4.3.3 部品構成 24
3.4.3.4 構成材料 30
3.4.3.5 物質 43
3.4.3.6 リサイクル 53
3.4.3.7 その他 54
3.4.3.8 殺生物目的 57
3.4.3.9 部工会オプション 62
3.5 行・列のコピー・挿入・削除について 67
3.5.1 行をコピー・挿入する(「行複写」ボタン) 67
3.5.2 行を削除する(「行削除」ボタン) 71
3.6 入力したデータに誤りがないか確認する(入力データのチェック) 74
3.7 入力したデータを削除する(一括クリア) 81

4 データを出力する(CSV ファイルの出力) 82

5 他社からのデータを取り込む(CSV ファイルの取り込み) 86

来歴 90

1　はじめに

1.1　この文書の目的

本文書は、一般社団法人日本自動車部品工業会(以下 JAPIA)を含む JAPIA シート連絡会※1 が、自動車等に使用する材料とそれに含有する物質の調査を実施する日本国内の企業※2 に対し提供している「JAPIA 統一データシート(以降、JAPIA シートと記述)」の基本操作を解説することを目的として作成されています。

※1　JAPIA シート連絡会の運営主体

一般社団法人　日本自動車部品工業会
一般社団法人　日本建設機械工業会からの参画企業
一般社団法人　日本産業車両協会からの参画企業
一般社団法人　日本農業機械工業会からの参画企業

※2 【自動車業界】

サプライチェーン上の各サプライヤ内（自動車メーカは使用しない）

【建設機械・産業車両・農業機械の業界】

(1) 各参画企業内※
(2) 各参画企業が過半出資(51%以上)または経営に強く関与している子会社内※
(3) (1),(2)のサプライチェーン上の各サプライヤ内

※建設機械、産業車両、農業機械だけでなく、その会社の全事業で利用可能

本文書では以下の内容は扱いませんので、それぞれ対応する資料をご確認ください。

- ✓ Microsoft Excel の機能(Microsoft Excel のヘルプ等をご参照ください)
- ✓ JAPIA シートに関する作業フロー
- ✓ 各社の製品に合わせた入力方法

1.2　対象とする読者

本文書が対象とする読者は、JAPIA シートを使用し、製品情報の授受を行う作業担当者とします。なお、基本的なパソコンの操作および Microsoft Excel の操作を習得済みであることを前提としています。

2 ご利用の前に

2.1 必要なシステム

JAPIA シートのご利用には、以下のハードウェアおよびソフトウェアの性能を 共に 満たす環境をご用意ください。

- 以下のハードウェアおよびソフトウェアは、株式会社マイクロソフトによる Windows(OS)と Excel(ソフトウェア)のバージョンの組み合せによる動作条件を前提とします。

2.1.1 ハードウェア

以下の性能もしくはそれ以上のパソコンを使用する必要があります(ただし外部ファイルのサイズに依存します)。

<Windows8.1>

CPU:	1 GHz 以上の 32 ビット (x86)または 64 ビット (x64)
メモリ:	1GB 以上(32 ビット)、または 2GB 以上(64 ビット)
空き HDD 容量:	16GB 以上(32 ビット)、または 20GB 以上(64 ビット)

<Excel 2013>

CPU:	1GHz 以上
メモリ:	1GB 以上(32 ビット)、または 2GB 以上(64 ビット)
空き HDD 容量:	3GB 以上

<Windows10>

CPU:	1 GHz 以上の 32 ビット (x86)または 64 ビット (x64)
メモリ:	1GB 以上(32 ビット)、または 2GB 以上(64 ビット)
空き HDD 容量:	16GB 以上(32 ビット)、または 20GB 以上(64 ビット)

<Excel 2016>

CPU:	1GHz 以上
メモリ:	2GB 以上
空き HDD 容量:	3GB 以上

<Excel 2019>

CPU:	1.6GHz 以上、2 コア
メモリ:	4GB 以上
空き HDD 容量:	4GB 以上

2.1.2 ソフトウェア

上述の条件を満たすハードウェア上で、以下のソフトウェア環境上でのご利用を推奨します。

基本ソフトウェア:	Windows 8.1 以上
動作対象 Excel:	Excel 2013 SP1 以上(日本語版と英語版)

2.2 必要なファイル

2.2.1 JAPIA シート本体

■ 定義

JAPIA シートは製品の含有化学物質情報を入力するためのフォームです。初期ファイル名は JapiaSheet_JP_yymmdd.xlsm(日本語版)、JapiaSheet_EN_yymmdd.xlsm(英語版)、JapiaSheet_CH_yymmdd.xlsm(中国語版)です。(yy は西暦下 2 桁、mm は月、dd は日を表している。)

■ 用途

JAPIA シートは含有化学物質調査の目的で、調査元から調査先に対して送付されます。同データシートに対して情報を入力し、調査元に返送します。なお、JAPIA シートを使用するにはパスワードが必要となります。

2.2.2 外部リストファイル

JAPIA シートへのデータ入力やデータチェックには、同データシートとは別に、同じ言語の「外部リストファイル」を用意する 必要 があります。

■ 定義

外部リストファイルとは JAPIA シート本体とは独立したファイルで、JAPIA によって保守されます。この外部リストファイルには材料のリストや物質のリストなど、JAPIA シートの入力に必要な補助的なデータが記載されています。機密上の理由により、外部リストの内容を閲覧することは許されません。

■ 使用条件

✓ 外部リストファイルを JAPIA シートと 同じフォルダ に入れておく

✓ 外部リストファイルの名称が定められた形式(EXLIST-20yy-mm-ddJP.xlsx)または(EXLIST-20yy-mm-ddEN.xlsx) または(EXLIST-20yy-mm-ddCH.xlsx)に沿っている(名称を変更してはならない)。

✓ 同じフォルダに複数の外部リストファイルを入れてはならない。

✓ 外部リストファイルは、同一年月日の最新版 JAPIA シートと組み合せて使用する。（有効期限を過ぎた旧版は使用できない。）

■ 読み込まれるタイミング

外部リストファイルは、JAPIA シートを起動した後、外部リストを使用するボタンを押した際に初めて読み込まれます(シート単位)。一度読み込まれると以降 JAPIA シートを閉じるまでは同じシートが再度読み込まれることはありません。従って、2 回目以降に外部リストファイルの同じシートを用いたボタンを押した場合は動作が速くなります。また、最初の読み込みから JAPIA シートの終了までの間に、万一外部リストファイルの内容が変更された場合、その変更は反映されません。

2.3 JAPIA シートの構成

JAPIA シート内には４種類のシートが含まれています。

- 表紙
- 入力帳票
- 入力要領
- MESSAGE

含まれるシート

2.3.1 表紙

表紙

シートの表紙です。シートのバージョンは右上部分で確認できます。

JAPIA統一データシート

Ver.4.01
2020年10月1日

JAPIA統一データシートは、環境規制への対応のため、製品中に含有する材料・物質の調査に使用する目的で、一般社団法人　日本自動車部品工業会（JAPIA）を含むJAPIAシート連絡会※1にて合意された帳票です。

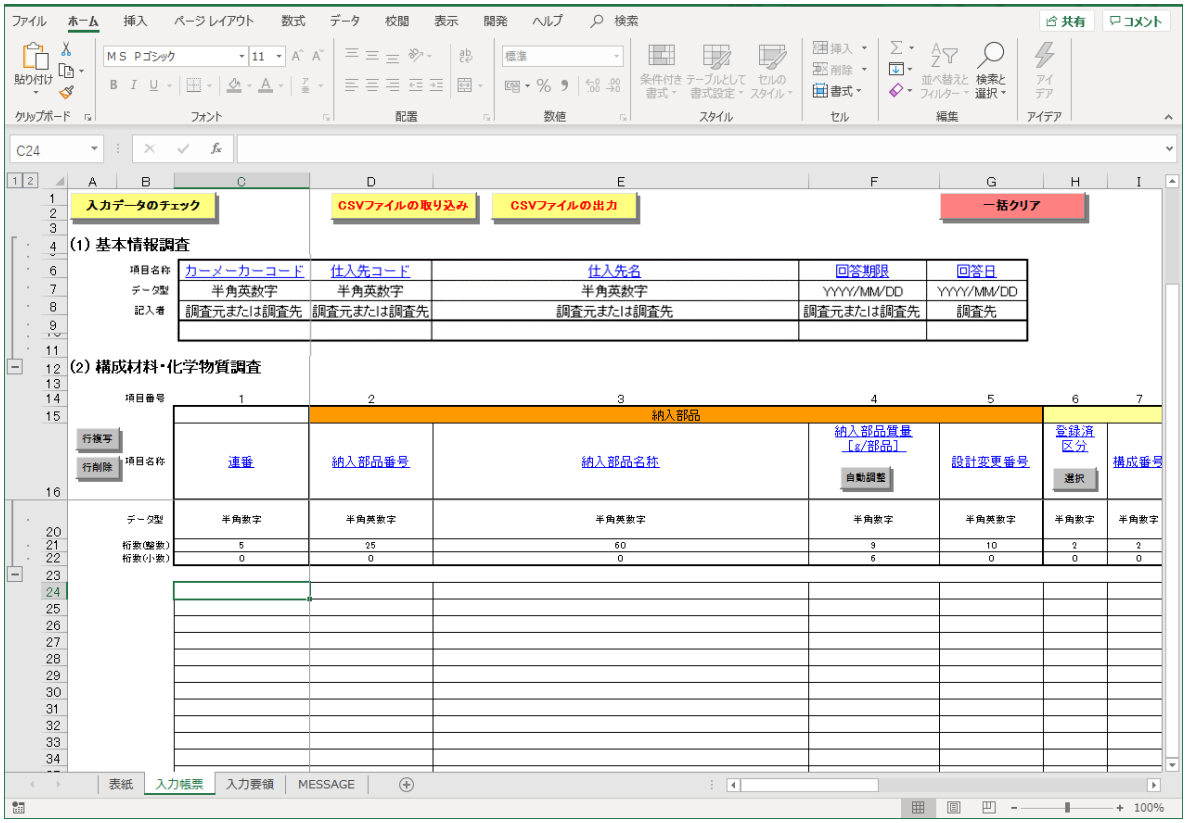
＜注意事項＞
全ての関連資料に対して、下記の行為は禁止されていますので、遵守して下さい。
・会社間で製品環境負荷物質情報のやり取りを行う以外の目的で利用することはできません。
・関連資料/プログラムは著作権およびその他の知的財産権に関する法律および条約によって保護されています。不正に流用することはできません。
・売買基本契約等の会社間の契約を締結していない第三者に配布することはできません。
なお、JAPIA統一データシートの運用に関しては、別に取りまとめた「JAPIA統一データシート運用規則」をご参照の上、遵守して下さい。

＜免責事項＞
・JAPIA統一データシート(外部リスト等、全ての関連資料を含む)を利用し、何らかの障害や損害(金銭的 および それ以外を含む)が発生したとしても、JAPIA統一データシートの意図した動作 および 不具合等、いかなる理由であっても、一切責任は負いません。
JAPIA統一データシート(外部リスト等、全ての関連資料を含む)はたとえ不具合等が発生した場合であっても、会社間での取り決めに影響を与えません。
会社間で取り決めた調査期限までに報告ができなくなってしまった 等、不測の事態が発生した場合には、会社間にて調整して頂く必要があります。
・JAPIA統一データシートのエラーチェックは入力データの形式チェックを行っているだけです。入力内容については、各社で責任を持って頂く必要があります。
また、データ入力中・データ送受信中 等いかなる場合において、入力データに不都合が生じてしまったとしても、一切責任は負いません。
・JAPIA統一データシート(外部リスト等、全ての関連資料を含む)は事前の予告なしに更新することがあります。

※1　一般社団法人　日本自動車部品工業会、一般社団法人　日本建設機械工業会、一般社団法人　日本産業車両協会、一般社団法人　日本農業機械工業会で構成。

2.3.2 入力帳票

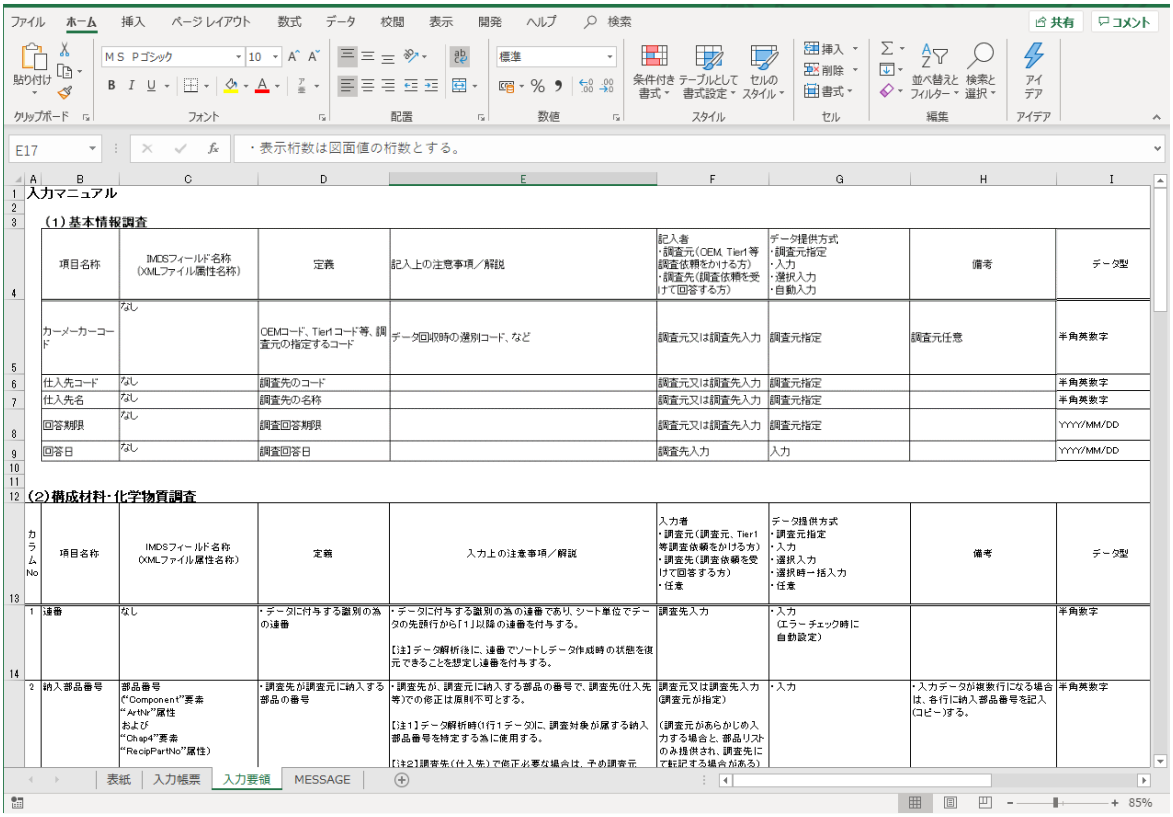
入力帳票



実際のデータ入力作業をここで行います。詳細は 10 ページ「データを入力する(入力帳票にデータを入力)」をご参照ください。

2.3.3 入力要領

入力要領



入力マニュアル

(1)基本情報調査

項目名称	IMDSフィールド名称 (XMLファイル属性名称)	定義	記入上の注意事項／解説	記入者 ・調査元(OEM, Tier1等調査依頼をかける方) ・調査先(調査依頼を受けて回答する方)	データ提供方式 ・調査元指定 ・入力 ・選択入力 ・自動入力	備考	データ型
カーメーカーコード	なし	OEMコード、Tier1コード等、調査元の指定するコード	データ回収時の選別コード、など	調査元又は調査先入力	調査元指定	調査元任意	半角英数字
仕入先コード	なし	調査先のコード		調査元又は調査先入力	調査元指定		半角英数字
仕入先名	なし	調査先の名称		調査元又は調査先入力	調査元指定		半角英数字
回答期限	なし	調査回答期限		調査元又は調査先入力	調査元指定		YYYY/MM/DD
回答日	なし	調査回答日		調査先入力	入力		YYYY/MM/DD

(2)構成材料･化学物質調査

カラムNo	項目名称	IMDSフィールド名称 (XMLファイル属性名称)	定義	入力上の注意事項／解説	入力者 ・調査元(調査元、Tier1等調査依頼をかける方) ・調査先(調査依頼を受けて回答する方) ・任意	データ提供方式 ・調査元指定 ・入力 ・選択入力 ・選択時一括入力 ・任意	備考	データ型
1	連番	なし	・データに付与する識別の為の連番	・データに付与する識別の為の連番であり、シート単位でデータの先頭行から[1]以降の連番を付与する。 [注]データ解析後に、連番でソートしデータ作成時の状態を復元できることを想定し連番を付与する。	調査先入力	・入力 (エラーチェック時に自動設定)		半角数字
2	納入部品番号	部品番号 ("Component"要素 "Artno"属性 および "Chap4"要素 "RecipPartNo"属性)	・調査先が調査元に納入する部品の番号	・調査先が、調査元に納入する部品の番号で、調査先(仕入先等)での修正は原則不可とする。 [注1]データ解析時(1行1データ)に、調査対象が属する納入部品番号を特定する為に使用する。 [注2]調査先(仕入先)で修正必要な場合は、予め調査元	調査元又は調査先入力 (調査元が指定) (調査元があらかじめ入力する場合と、部品リストのみ提供され、調査先にて転記する場合がある)	・入力	・入力データが複数行になる場合は、各行に納入部品番号を記入(コピー)する。	半角英数字

表紙 | 入力帳票 | 入力要領 | MESSAGE

各項目の意味や項目別の入力方法等を調べるためにはこのシートを参照します。

入力帳票と入力要領シート間でジャンプすることが可能です。詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご参照ください。

2.3.4 MESSAGE

MESSAGE

A	B
チェック中断	・ボタンを押してから実際にチェックが中断するまでに数分かかる事があります。
R42	[mes17:エラー]入力されている値がリストの値と合致しません。
C43	[mes8:警告]入力されている値がリストの値と合致しません。 物質含有率(固定値)については、部工会オプションの物質含有率 (最大値、最小値、残部)から自動設定されます。
O43	[mes26:エラー]材料名称、材料規格、材料コード、材料記号、VDA材料分類の組み合わせがリストの値と合致しません。
Z43	[mes53:エラー]物質コード、物質名称、ID[物質]の組合せが正しくありません。
C44	[mes8:警告]入力されている値がリストの値と合致しません。 物質含有率(固定値)については、部工会オプションの物質含有率 (最大値、最小値、残部)から自動設定されます。
C45	[mes8:警告]入力されている値がリストの値と合致しません。 物質含有率(固定値)については、部工会オプションの物質含有率 (最大値、最小値、残部)から自動設定されます。
C46	[mes8:警告]入力されている値がリストの値と合致しません。 物質含有率(固定値)については、部工会オプションの物質含有率 (最大値、最小値、残部)から自動設定されます。

データ入力後、誤りがないかどうか確認するため「入力データのチェック」作業を行います。

このシートにはチェック結果が表示されます。

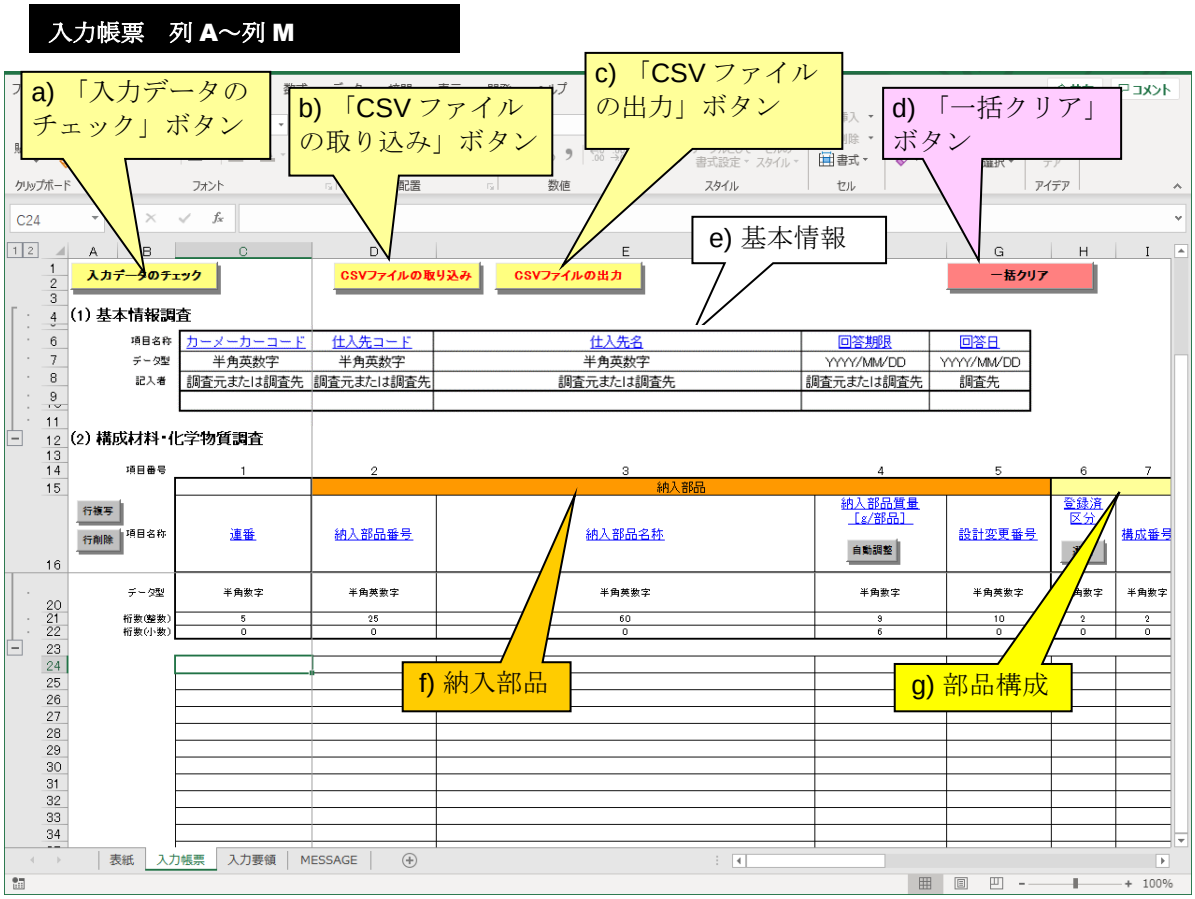
詳細は 74 ページ「入力したデータに誤りがないか確認する(入力データのチェック)」をご参照ください。

3　データを入力する(入力帳票にデータを入力)

この章では、JAPIA シートの目的であるデータの入力および調査元への提出に必要な操作について解説します。

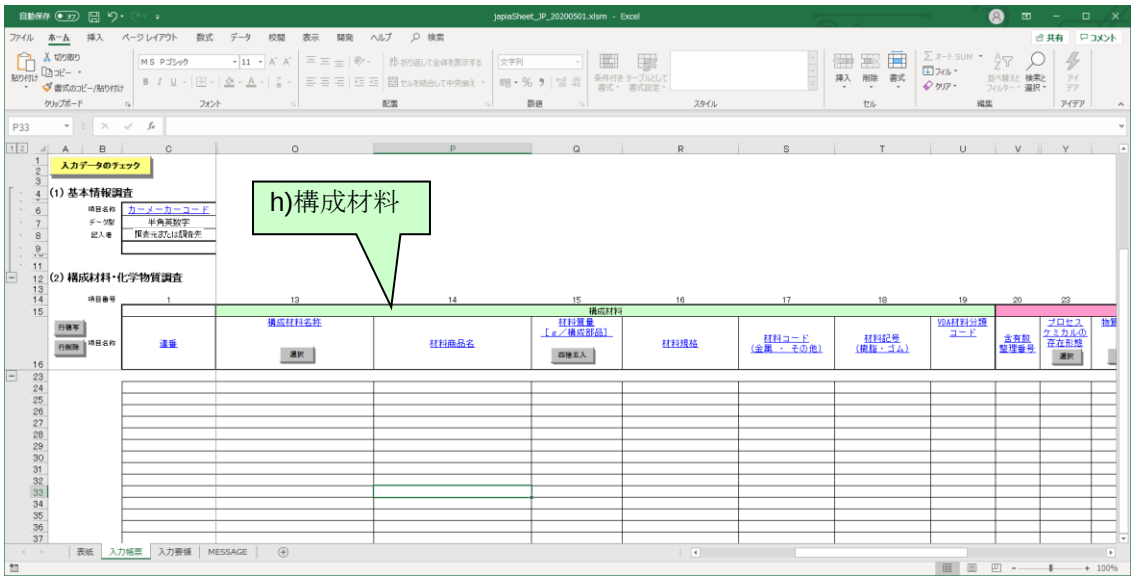
3.1　入力帳票各部の名称

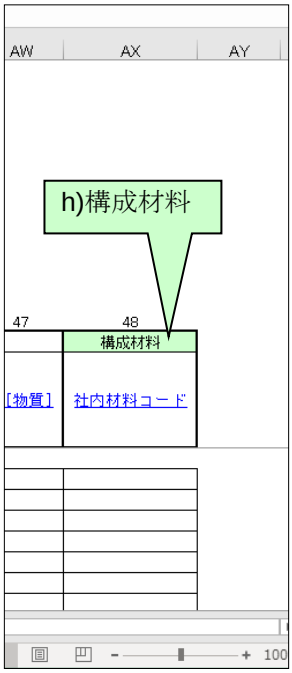
入力帳票シートは以下のような構成になっています。



a)　「入力データのチェック」ボタン　74 ページ
b)　「CSV ファイルの取り込み」ボタン　86 ページ
c)　「CSV ファイルの出力」ボタン　82 ページ
d)　「一括クリア」ボタン　81 ページ
e)　基本情報　16 ページ
f)　納入部品　22 ページ
g)　部品構成　24 ページ

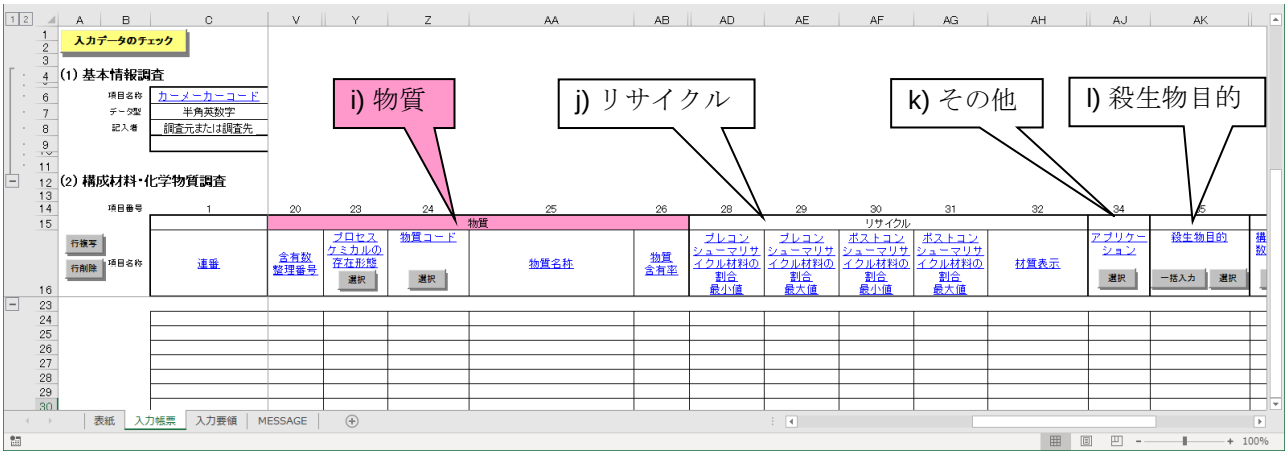
入力帳票　列O～列U, 列AX





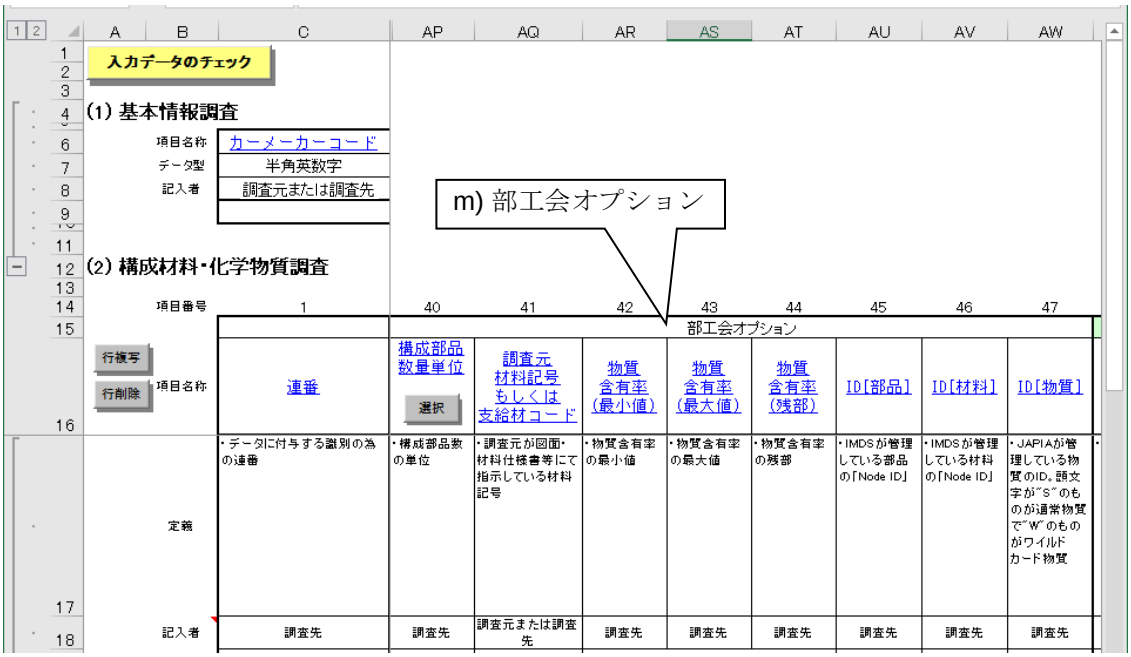
h)　構成材料　　30 ページ

入力帳票　列 V, 列 Y～列 AB, 列 AD～列 AH,列 AJ,列 AK



i)　物質　　43 ページ
j)　リサイクル　　53 ページ
k)　その他　　54 ページ
l)　殺生物目的　　57 ページ

入力帳票　列 AP～列 AW

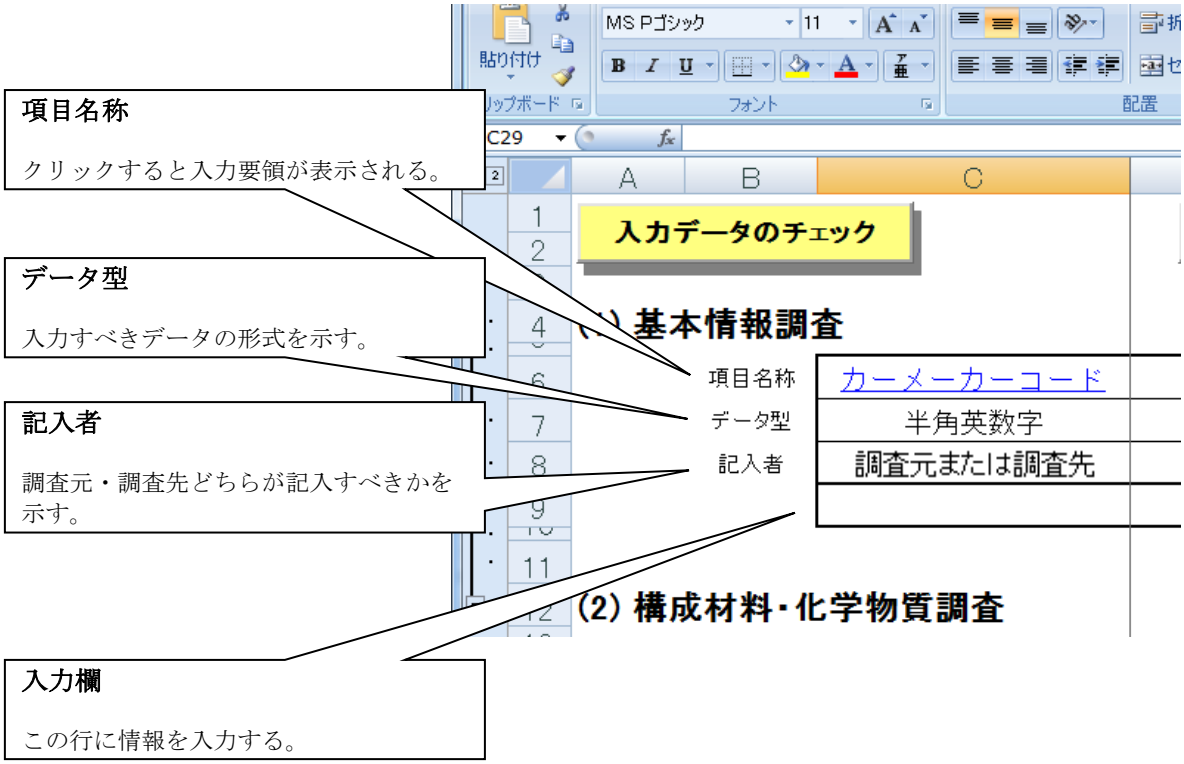


m)　部工会オプション　　62 ページ

◎ 基本情報調査表

基本情報調査表には以下の行があります。
なお、これらの行は左端の「－」ボタンで折りたたみが可能です。

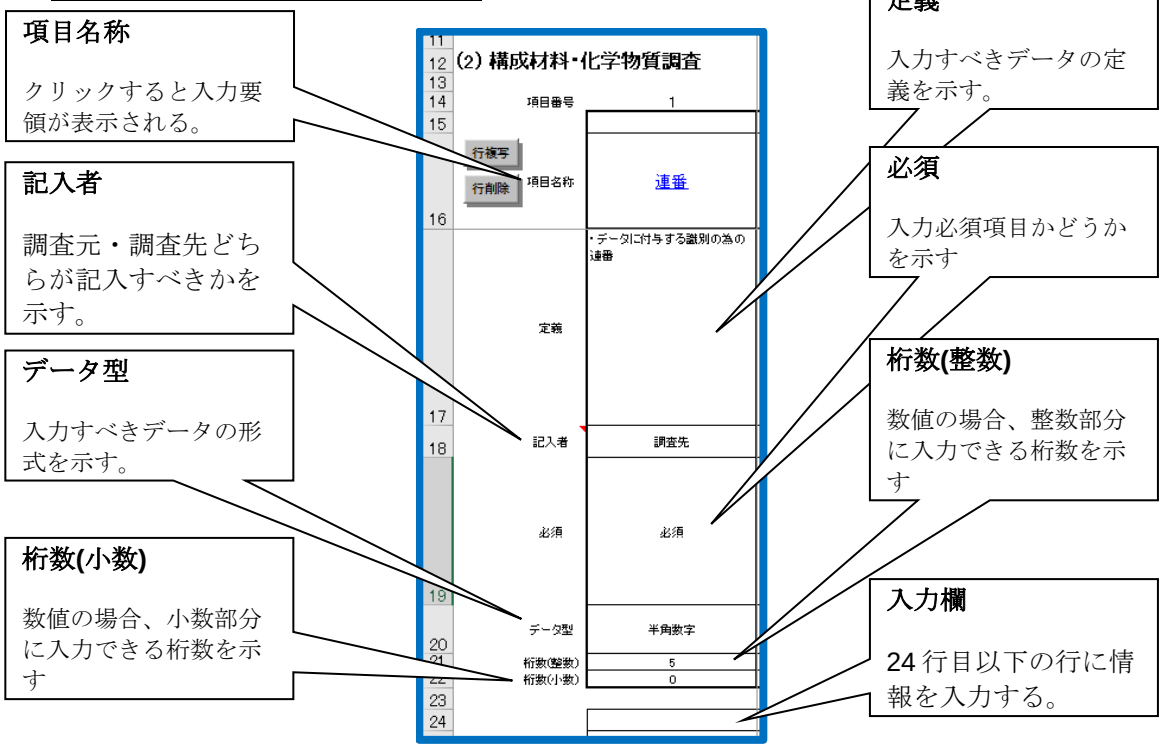
基本情報調査表の行



◎ 構成材料・化学物質調査表

構成材料・化学物質調査表には以下の行があります。
なお、これらの行は左端の「－」ボタンで折りたたみが可能です。

構成材料・化学物質調査表の行



3.2　入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)

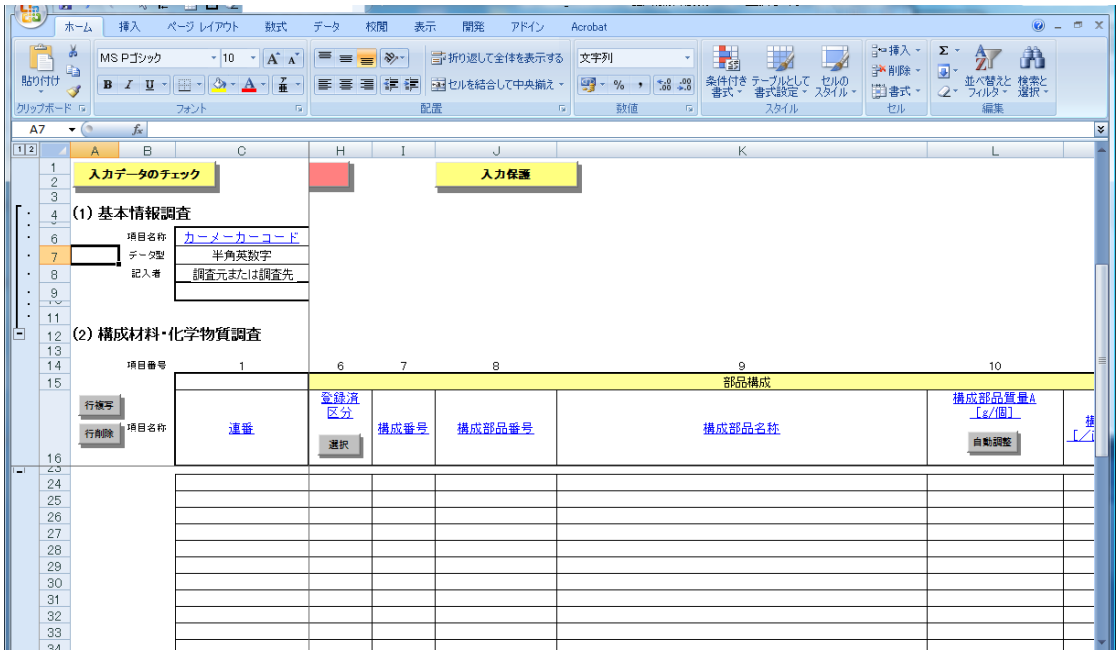
入力項目の意味や項目別の入力方法、記入者を確認したい場合、入力項目の「項目名称」セルをクリックすると入力要領シートが表示され、クリックした項目の解説が表示されます。

操作

◎ 項目名称を選択

入力帳票

項目名称はハイパーリンクになっています。



◎ 入力要領の確認、入力帳票へ戻る

入力要領

クリックした項目が自動的に選択されています。

選択された行には入力に関する注意事項が記述されています。

入力帳票に戻る場合は表の右側にある「入力帳票に戻る」リンクをクリックします。

3.3 基本情報を入力する

【調査元】または{調査先}

{調査先}

この表には調査元もしくは調査先が調査の基本情報を入力します。

ただし、右端の回答日は調査先にて入力します。

各項目に関して不明な点があれば、項目名をクリックして入力要領を確認してください(詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご参照ください)。

3.4 「構成材料・化学物質情報」表を入力する

ここでは調査対象である「構成材料・化学物質情報」表を入力する方法を解説します。

3.4.1 データ階層構造と行

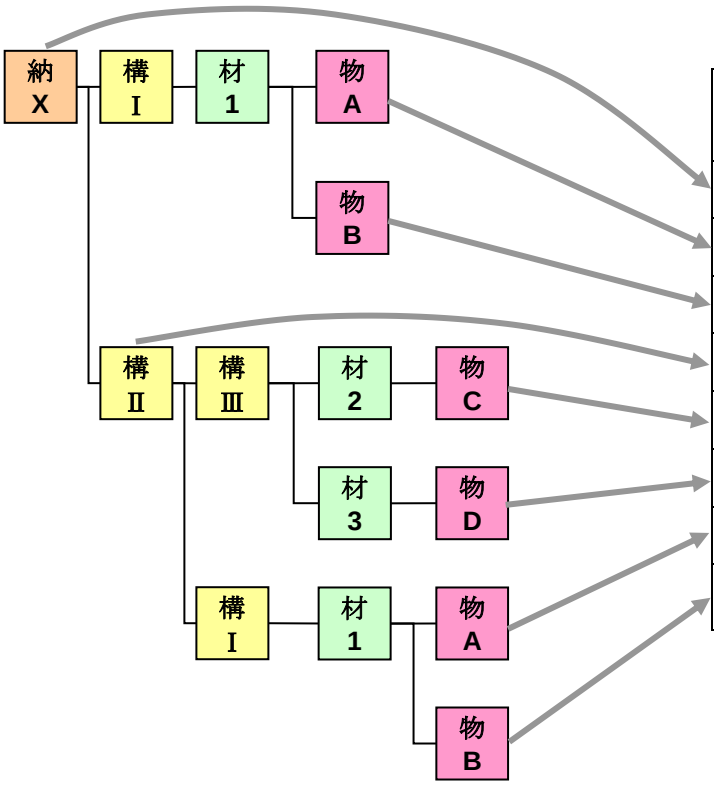
構成材料・化学物質情報は構成材料・化学物質調査表の下の行に記述していきます。

その際、納入部品をツリー構造(納入部品、構成部品、材料、物質の階層構造)としてとらえ、階層の先頭から末端の順に入力していきます。なお、納入部品の単位での先頭行には構成部品は記入せず、空欄とします。

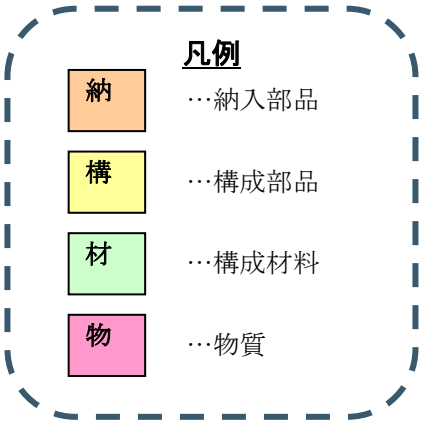
基本的に 1 行に入力する情報は 1 構成部品に該当し、部品に含まれる構成材料、物質の情報を同じ行に記述します。ただし、1 構成部品に対して複数の材料または物質が使用されていた場合は、複数行を使用します。

また、1 件の納入部品内の別の階層に同じ構成部品や構成材料が複数回使われていた場合、(例の構成部品Ⅰ)それぞれ別の情報として別の行に記述します(詳細は 25 ページ「登録済区分」をご参照ください)。一方、同じ階層内に複数個の構成部品が含まれていた場合(例の構成部品Ⅲが構成部品Ⅱに 5 個含まれている場合など)、構成部品数量を指定し、1 行に記述します。

一般的な例　納入部品 X

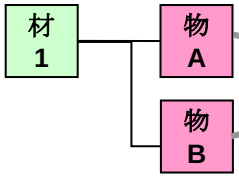


連番	納入部品	構成番号	構成部品	材料	物質	…
1	X	1	(空欄)			
2	X	2	Ⅰ	1	A	
3	X	2	Ⅰ	1	B	
4	X	2	Ⅱ	(空欄)		
5	X	3	Ⅲ	2	C	
6	X	3	Ⅲ	3	D	
7	X	3	Ⅰ	1	A	
8	X	3	Ⅰ	1	B	



特殊な例　材料 1

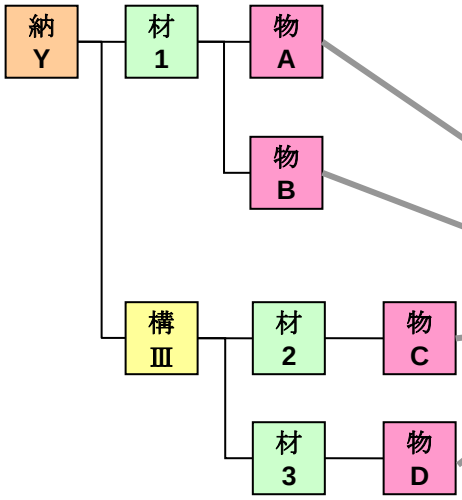
材料そのものを送る場合、構成部品は空欄とします。納入部品欄には必ず値を入力する必要があります。



連番	納入部品	構成番号	構成部品	材料	物質	…
1	1	1	(空欄)	1	A	
2	1	1	(空欄)	1	B	

特殊な例

納入部品の下に直接材料を記述します。この場合構成部品欄は空欄です。

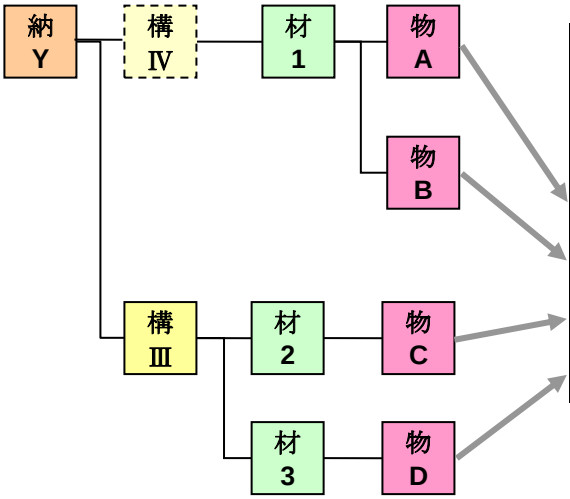


連番	納入部品	構成番号	構成部品	材料	物質	…
1	Y	1	(空欄)	1	A	
2	Y	1	(空欄)	1	B	
3	Y	2	III	2	C	
4	Y	2	III	3	D	

!! 重要 !!

この構成では、納入部品の直下に材料と構成部品が混在しているため、エラーチェックによって「警告」が発生します。(詳細は 30 ページ「構成材料」をご参照ください) 。

例えば部品全体を材料が覆う場合(例　ハンダ、表面処理、接着剤など)でこのような構成を作成する際は、**以下のようにダミーの構成部品を配置することを推奨します。**



連番	納入部品	構成番号	構成部品	材料	物質	…
1	Y	1	(空欄)			
2	Y	2	Ⅳ	1	A	
3	Y	2	Ⅳ	1	B	
4	Y	2	III	2	C	
5	Y	2	III	3	D	

構成部品Ⅲと同じレベルにダミーの構成部品Ⅳを配置することで、同一レベルに部品と材料が混在することを防ぐことができます。

3.4.2 入力が不要な列を明示する(不要項目フラグ)

【調査元】

調査元が調査先に入力依頼を行う際、調査元において入力不要であると判断した項目があれば、JAPIA シート上でその旨を調査先に示すことができます。
入力不要な列の全てのデータ行(末尾の空白行以降は除く)に「/」または「*」を入力すると、その列はエラーチェックの対象となりません。
ただし、この機能が使用できるのは以下の項目のみです。それ以外の列には使用できません。

- 納入部品名称
- 納入部品質量
- 設計変更番号
- 登録済区分
- 構成部品質量 A
- 構成部品数
- 材料商品名
- プレコンシューマリサイクル材料の割合 最小値
- プレコンシューマリサイクル材料の割合 最大値
- ポストコンシューマリサイクル材料の割合 最小値
- ポストコンシューマリサイクル材料の割合 最大値
- 材質表示
- アプリケーション
- 構成部品数量単位
- 調査元材料記号
- 物質含有率(最小値)
- 物質含有率(最大値)
- 物質含有率(残部)
- ID[部品]
- ID[材料]
- 社内材料コード

3.4.3 項目別解説

データを入力時の注意事項を項目別に解説します。

情報の入力は定められたセルのみ可能です。入力不可の行は保護されているため、編集しようとすると Excel のエラーメッセージが表示されます。

◎ 入力不可の行をダブルクリック

エラーメッセージ

なお、空白行はデータの最終行とみなされます。データの途中に空白行があるとそこで最終行とみなされます。ご注意ください。

英語以外の入力はできません。半角文字以外の文字を記入しないでください。

Alt+Enter によるセル内の改行は不具合の元となるため、入力しないでください。

3.4.3.1 連番

{調査先}

連番には 1 行目から順に番号を付与します。複数の納入部品であっても連番は重複せず、１ずつ増加します。

詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご覧ください。

3.4.3.2 納入部品

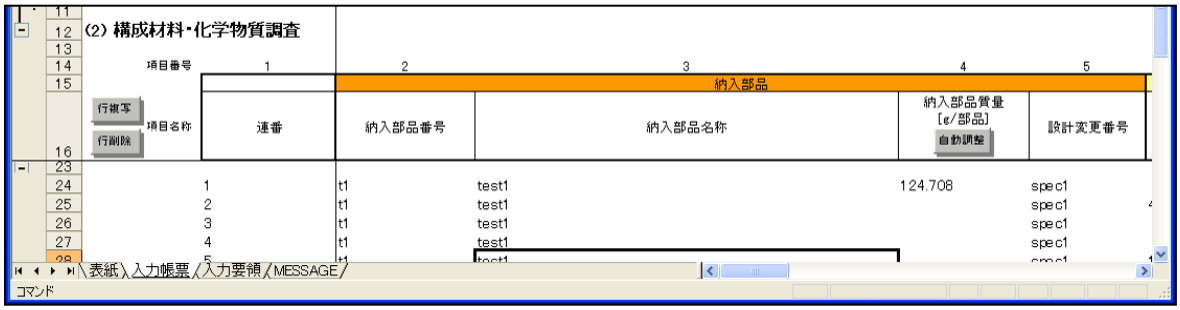
【調査元】または{調査先}

ここには納入部品の情報を入力します。1 件の納入部品に対して複数の行がある場合、全行の同じ列に同じ値を入力します(ただし、納入部品質量は同一部品につき最初の行のみに入力します。最初の行以外は空欄にしておきます)。行のコピーはボタンから行うこともできます。詳細は 67 ページ「行をコピー・挿入する(「行複写」ボタン)」をご参照ください。

17 ページの納入部品 X の場合、1 行目に納入部品 X の納入部品情報(納入部品番号、納入部品名称、納入部品質量、設計変更番号)を入力し、2 行目以降は同じ情報を記入します。ただし、納入部品質量はコピーせず空欄にしておきます。

各項目に関して不明な点があれば、項目名をクリックして入力要領を確認してください(詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご参照ください)。

納入部品



「自動調整」(納入部品質量)ボタン

納入部品質量を手入力することも可能ですが、その場合は下位部品、材料質量から算出された値との差が最大偏差以内になるよう入力する必要があります。IMDS と同じ条件でエラーチェックを実施、上限を超えた場合、警告が発生します。

このボタンを押すと、納入部品の質量が自動設定されます。材料を元に、材料が属する構成部品の質量を全て再計算し、これらの構成部品質量を積み上げて納入部品質量を算出します。なお、材料質量と構成部品質量では材料質量が優先されて計算されます。両者が共に入力済みの状態で「自動調整」(納入部品質量)ボタンを押した場合、構成部品質量は上書きされます。従って材料質量が未入力、材料が属する構成部品質量が入力済みの場合、構成部品質量が 0g として計算され、元に戻せなくなりますのでご注意ください。逆に材料質量を入力して「自動調整」(納入部品質量)ボタンを押せば、構成部品質量を手入力する必要はありません。

17 ページの納入部品 X において「自動調整」(納入部品質量)ボタンを、X 自身および X に含まれる全ての構成部品(構成部品Ⅰ～Ⅲ)の部品質量が材料 1～3 の質量を基準として書き換えられます。材料 1～3 の質量を入力しておけば構成部品および納入部品 X の質量を手入力する必要はありません。入力してあっても上書きされます。

操作

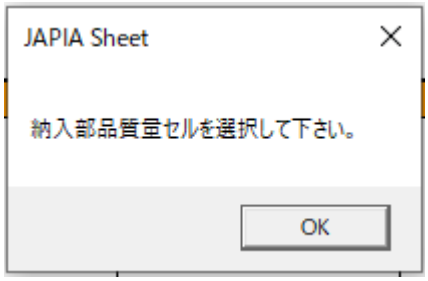
◎ 納入部品質量を自動調整する

ボタンを押した場合、末端の材料質量を基準として、配下の構成部品質量を全て書き換えます。

このボタンを使用する際は、納入部品質量のセルを選択しておく必要があります。

「自動調整」(納入部品質量)ボタン

◎ エラーメッセージ



別のセルを選択している場合はエラーメッセージが表示されます。

◎ 主なエラーチェック項目

■ 下位部品、材料質量から算出された値との差が最大偏差を超えた場合はエラーチェックにて警告が発生します。

最大偏差一覧

0g	≦	X	<	1g	⇒	±100%
1g	≦	X	<	100g	⇒	±10%
100g	≦	X	<	1kg	⇒	±5%
1kg	≦	X	<	10kg	⇒	±2%
10kg	≦	X	<	100kg	⇒	±1%
100kg	≦	X			⇒	±0.5%

3.4.3.3 部品構成

【調査元】または{調査先}

{調査先}

ここでは、納入部品に含まれる各構成部品の情報を入力します。

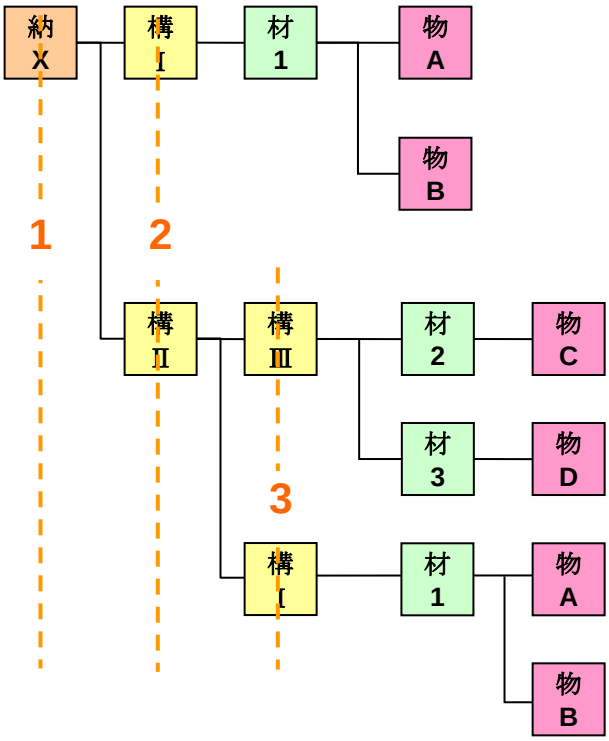
各項目に関して不明な点があれば、項目名をクリックして入力要領を確認してください(詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご参照ください)。

!! 重要 !!

■ 構成番号

納入部品の階層構造の先頭から順に、**部品の階層**に対して番号を振ります。この番号を構成番号として入力します。

例 納入部品 X の場合



納入部品に構成材料を直接入力する場合、構成番号は「1」とし、構成部品番号・構成部品名称・構成部品質量・構成部品数量を空欄とします。

■ 部品に複数の材料、物質が含まれる場合

１つの構成部品に対して複数行を入力します。このとき、全ての行に構成番号・構成部品番号・構成部品名称・構成部品数量の情報を入力する必要があります。同一部品内で同一項目の整合性が取れていなければ(同じ項目に同じ値が入っていなければ)エラーとなります。

■ 同一構成部品の識別

「構成部品番号」および「構成部品名称」の少なくとも一方を入力する必要があります。また、両者の**組み合わせ**が、同一構成部品を示すキーとなります。なお、IMDS へアップロードする際は「構成部品名称」が必須となります。

例

以下の例はそれぞれ登録可能ですが、構成部品番号が不一致のため別のデータとして認識されます。

構成部品番号：	123	構成部品名称：	ABC
構成部品番号：	(空欄)	構成部品名称：	ABC
構成部品番号：	123	構成部品名称：	(空欄)

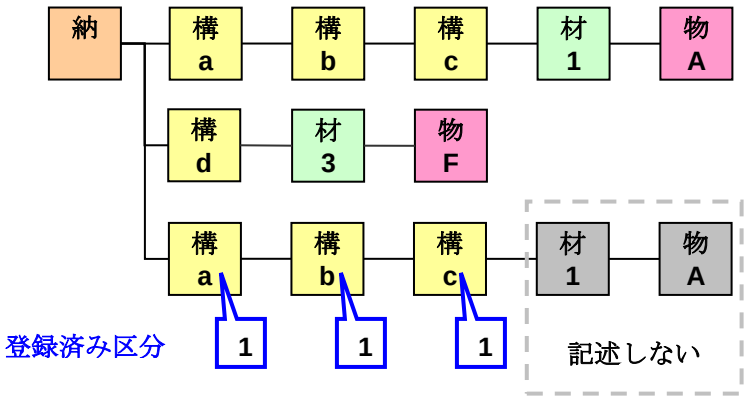
■ 登録済区分

以下の条件に該当するデータを入力する場合、登録済区分を指定することによって入力を簡略化し、作業時間を短縮することができます。

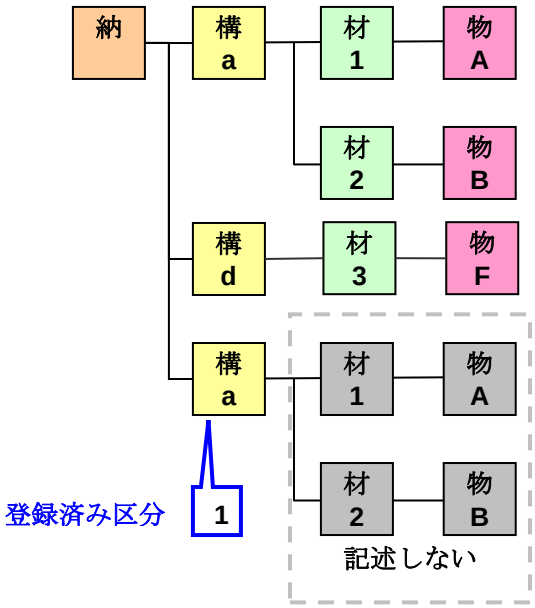
- 登録済区分 = 1: 登録済(本帳票に同一品番あり)
- 登録済区分 = 2: 登録済(過去の調査にて回答済)の場合
- 登録済区分 = 3: 支給部品の場合
- 登録済区分 = 4: 支給材料の場合

- 登録済区分 = 1: 登録済(本帳票に同一品番あり)
  - ✧ 同一の部品が同じ納入部品内の異なる階層に存在する場合、または同じ帳票内の別の納入部品に記述済みの場合(つまり、同じ帳票のどこかに記入済みの場合)に使用します。
  - ✧ この区分が指定された行は、以下の項目**以外**は入力が不要となります。逆に、以下の項目は必ず入力する必要があります。
    - 構成部品番号+構成部品名称(参照先と同じものが入力されている必要あり)
    - 部品質量 A
    - 構成部品数量
  - ✧ エラーチェック時には同一帳票内に参照先が存在するかどうかのチェックのみ行います。ただし、部品質量 A の整合性チェック(同一部品に対し同じ質量が入力されているかどうか)は通常のデータと同様に行われます。
  - ✧ 上述の項目以外が入力されていた場合は無視されます。異なる値が入力されていてもエラーにはなりません。

- ✧ 参照先(実際のデータが入っている行)が複数の構成部品を表す場合、参照元(登録済区分行)にはツリー構造を全て記述し矛盾のないような構成にする必要があります。つまり、行そのものを省略することはできません。
  例えば以下のように 3 階層で構成される部品の最上位部品(構成部品 a)を登録済区分で参照する場合、構成部品 a の参照だけでデータを完成させるわけではありません。3 階層の部品の中身が全て参照先と同じであろうとも、3 つの部品(構成部品 a、b、c)の分だけ 3 行データを作成し、それぞれ登録済区分を指定する必要があります。



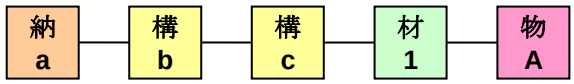
- ✧ 一方、参照先が複数の材料を含む構成部品の場合、参照元は 1 行となります。



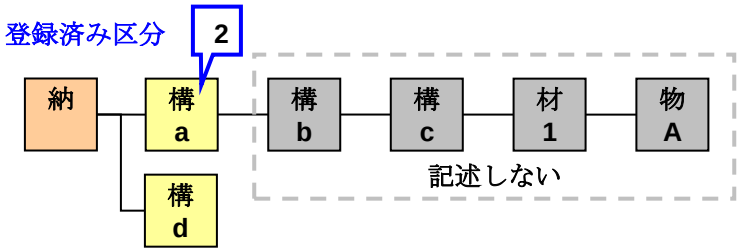
- ➢ 登録済区分 = 2: 登録済(過去の調査にて回答済)の場合
  - ✧ 過去の調査にて同一部品の情報を回答済みで、調査元がその情報を保持している場合に使用します。
  - ✧ この区分が指定された行は、以下の項目以外は入力が不要となります。逆に、以下の項目は必ず入力する必要があります。
    - ● 構成部品番号
    - ● 部品質量 A
    - ● 構成部品数量

- ✧ 登録済区分 = 1 と異なり、構成部品番号が必ず入力されている必要があります。
- ✧ エラーチェック時、部品質量 A の整合性チェック(同一部品に対し同じ質量が入力されているかどうか)は通常のデータと同様に行われます。
- ✧ 上述の項目以外が入力されていた場合は無視されます。異なる値が入力されていてもエラーにはなりません。
- ✧ この区分を指定する部品が配下に子部品を含む場合、子部品の行は作成する必要がありません。
- ✧ 登録済区分=2 の部品に対して子部品を指定することはできません。指定した場合はエラーが発生します。
  以下のような構成部品 a が過去の調査にて回答済みの場合、構成部品 a の行のみを作成します。構成部品 b 以下について個別に行を作成したり、別の構成部品を子部品として指定した場合はエラーとなります。

過去の調査



今回の調査



- ➢ 登録済区分 = 3: 支給部品の場合
  - ✧ 支給部品を使用する際、この区分を使用します。
  - ✧ この区分が指定された行は、以下の項目以外は入力が不要となります。ただし、以下の項目は必ず入力する必要があります。
    - ● 構成部品番号
    - ● 部品質量 A
    - ● 構成部品数量
  - ✧ 登録済区分 = 1 と異なり、構成部品番号が必ず入力されている必要があります。
  - ✧ エラーチェック時、部品質量 A の整合性チェック(同一部品に対し同じ質量が入力されているかどうか)は通常のデータと同様に行われます。
  - ✧ 上述の項目以外が入力されていた場合は無視されます。異なる値が入力されていてもエラーにはなりません。
  - ✧ この区分を指定する部品が配下に子部品を含む場合、子部品の行は作成する必要がありません。
  - ✧ 登録済区分=3 の部品に対して配下に子部品を指定することはできません。指定した場合はエラーが発生します。
  - ✧ JAPIA シート上での記述方法は登録済区分=2 と同様です。

- ➢ 登録済区分 = 4: 支給材料の場合
  - ✧ 支給材料を使用する際、この区分を使用します。
  - ✧ この区分が指定された材料情報は、以下の項目以外は入力が不要となります。ただし、以下の項目は必ず入力する必要があります。
    - ● 材料質量

✧ 上述の項目以外が入力されていた場合は無視されます。異なる値が入力されていてもエラーにはなりません。

「登録済区分」ボタン

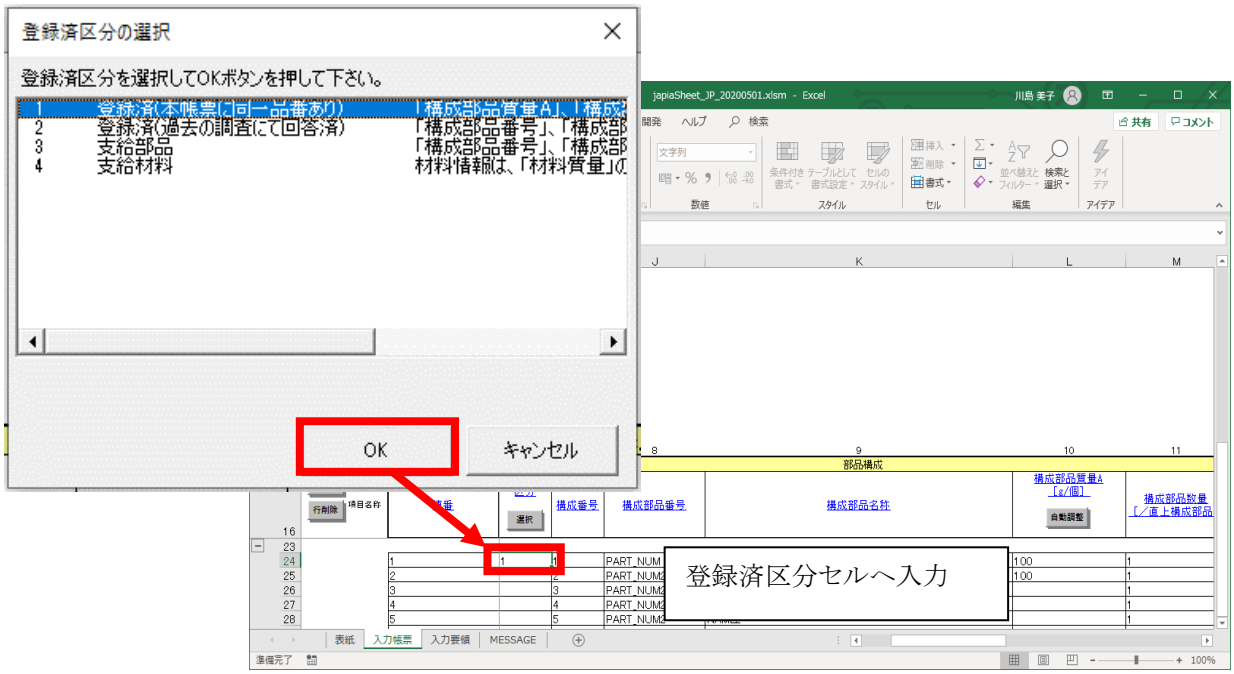
登録済区分はシート上に直接入力することも可能ですが、このボタンを使用すると、一覧の中から該当する区分を指定することができます。

操作

◎ 登録済区分の指定

登録済区分の指定

登録済区分セルを選択してから「登録済区分」ボタンを押すと、「登録済区分の選択」画面が表示されます。
表示された登録済区分の中から 1 件を選択し、「OK」ボタンを押すと、選択した区分がセルに入力されます。



「自動調整」(構成部品質量 A)ボタン

構成部品質量を手入力することも可能ですが、下位部品、材料質量から算出された値との差が最大偏差以内になるよう入力する必要があります。差が最大偏差を超えるとエラーが発生します。詳細は 23 ページをご覧ください。

「自動調整」(構成部品質量 A)ボタンを押すと、構成部品の質量が自動設定されます。

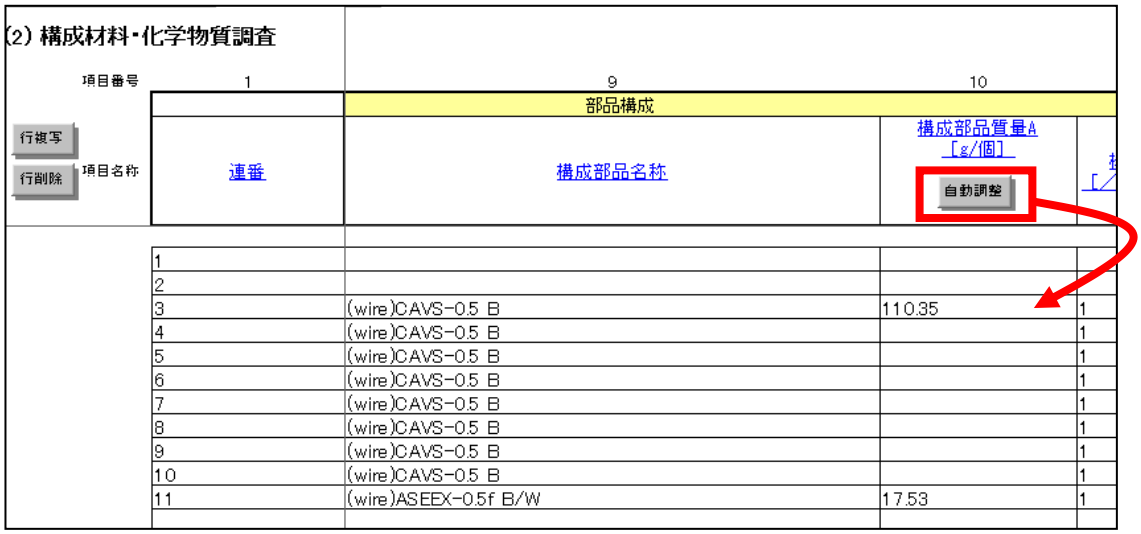
17 ページの構成部品Ⅲの例では、Ⅲ自身の部品質量が材料 2、3 の質量を基準として書き換えられます。

操作

◎ 構成部品質量 A を自動調整する

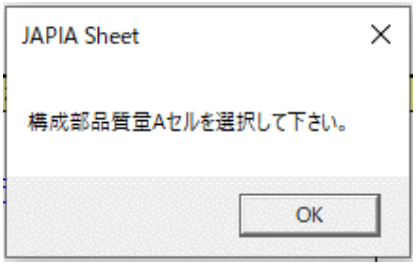
ボタンを押した場合、末端の材料質量を基準として、配下の構成部品質量を全て書き換えます。

「自動調整」(構成部品質量)ボタン



◎ エラー

エラーメッセージ



このボタンを使用する際は、構成部品質量のセルを選択しておく必要があります。

別のセルを選択している場合はエラーメッセージが表示されます。

3.4.3.4 構成材料

{調査先}

ここでは構成部品に含まれる材料の情報を入力します。

構成材料の各項目は JAPIA シート用材料リストに掲載されている材料の中から該当するものを選択します。シート上に直接入力することも可能ですが、その材料はリストの内容と一致する必要があります。検索対象の材料は外部リストファイルに記載されています。

各項目に関して不明な点があれば、項目名をクリックして入力要領を確認してください(詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご参照ください)。

!! 重要 !!

- 同一材料の識別
  材料の識別は**材料質量**で行います。材料質量が入力されている行は全て別の材料としてみなされます。項目が全て一致する行であっても同様です。
- 材料に複数の物質が含まれる場合
  物質を複数含む材料の場合は同一材料を複数行で表します。詳細は 43 ページ「物質」をご参照ください。
  構成部品 I に含まれる構成材料 1 の場合、物質を 2 種類含むため同じ情報を 2 行入力します。

- 材料記号、材料コード、材料規格のワイルドカードについて
  「選択」(構成材料名称)ボタンから材料を選択した場合、材料記号、材料コード、材料規格に「$」または「@」記号が入力されていることがあります。これはワイルドカードと呼ばれ、**必ずユーザー自身で別の文字列に置き換えるか、削除する**必要があります。ワイルドカードを残したままエラーチェックを行うとエラーが発生します。
  二つの記号の違いは以下の通りです。
  - タイプ 1:$　　ワイルドカード部分に**何らかの文字列を入力しなければならない（文字列として＄と＠の入力は不可）**材料
  - タイプ 2:@　　ワイルドカード部分を**削除するか、あるいはワイルドカード部分に何らかの文字列を入力しなければならない（文字列として＄と＠の入力は不可）**材料
- 材料のワイルドカードは物質のワイルドカード物質とは異なります。詳細は 43 ページ「ワイルドカード物質について」をご参照ください。

「選択」(構成材料名称)ボタン

このボタンを使用すると、JAPIA シート用材料リストに掲載されている材料の中から該当するものを選択することができます。この操作を行うと以下の項目が自動的に各セルに入力されるため、入力作業の負荷が軽減されます。

- 構成材料名称
- 材料規格
- 材料コード
- 材料記号
- VDA 材料分類コード

以下のフィールドは、物質情報を含む材料を選択した場合のみ入力されます。
物質情報を含む材料と含まない材料は、ID[材料]の有無で区別します。

- 含有数整理番号
- プロセスケミカルの存在形態
- 物質コード
- 物質名称(英語)
- 物質含有率(固)

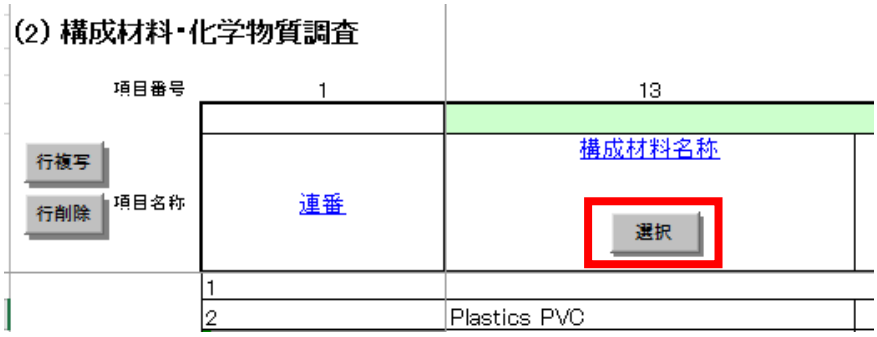
- 物質含有率(小)
- 物質含有率(大)
- 物質含有率(残)
- ID[材料]
- ID[物質]

操作

◎ 構成材料名称の選択

材料名称セルを選択してから「選択」(構成材料名称)ボタンを押すと、「材料の選択」画面が表示されます。
この画面から材料を検索し、「OK」を押すと、選択した材料がセルに入力されます。

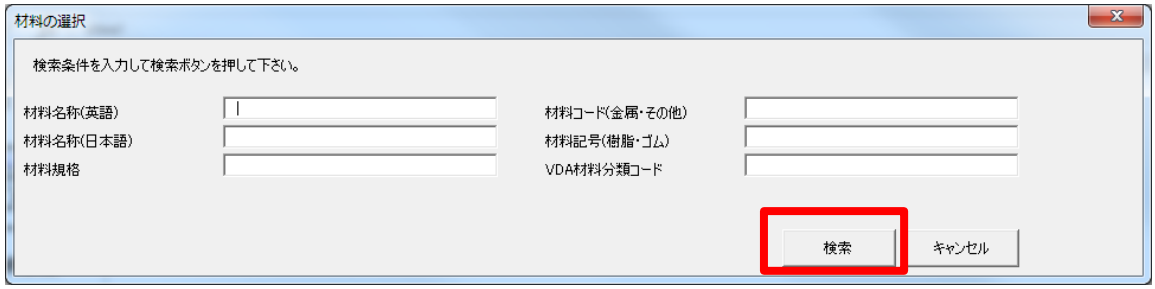
「選択」(構成材料名称)ボタン



「選択」(構成材料名称)ボタンを押します。

◎ 検索条件の指定、検索

「材料の選択」画面



ボタンを押すと「材料の選択」画面が表示されます。
この画面で以下の検索条件を指定し、「検索」ボタンを押します。

- ✧ 材料名称(英語)
- ✧ 材料名称(日本語)
- ✧ 材料規格
- ✧ 材料コード(金属・その他)
- ✧ 材料記号(樹脂・ゴム)
- ✧ VDA 材料分類コード

➢ 入力された文字列の扱い(通常)

検索は基本的に部分一致で行われます。入力した文字列**を含む**検索結果が表示されます。

例

検索条件	steel	
表示される検索結果	**steel**	(一致)
	Steel123	(で始まる)
	magnetic **Steel** 123	(中間)
	magnetic **steel**	(で終わる)

➢ 入力された文字列の扱い(VDA 材料分類コード)

VDA 材料分類コードのみ先頭一致です。入力した文字列<u>で始まる</u>検索結果が表示されます。
例

検索条件	1.1	
表示される検索結果	**<u>1.1</u>**	(一致)
	<u>1.1</u>.1	(で始まる)

※この場合、入力された値で始まらないもの(例　2.**<u>1.1</u>**)は表示されません。

- 文字の区別
  - 半角アルファベットの大文字・小文字は区別されません。
    例

検索条件	Ab
表示される検索結果	AB
	Ab
	aB
	ab

  - 全角・半角文字は別の文字として区別されています。ご注意ください。

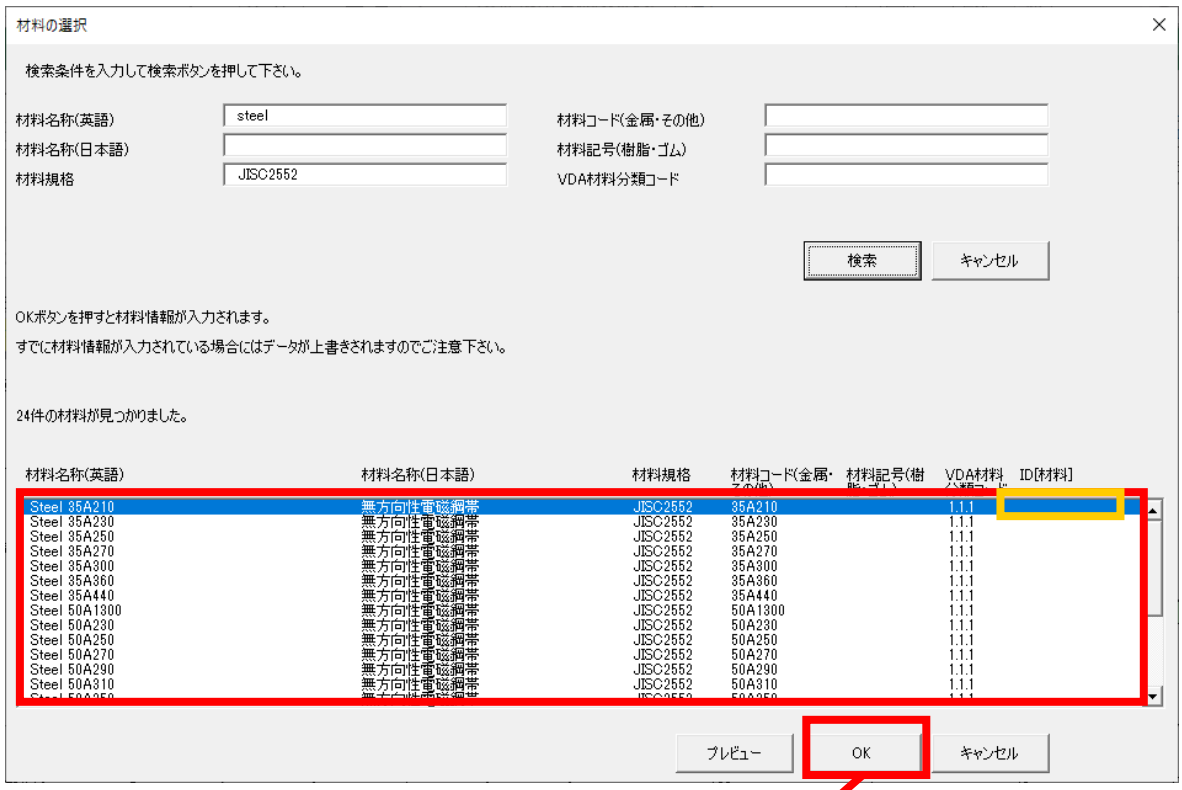
- 検索条件の項目について
  - 全ての検索条件を入力する必要はありません。
  - 複数の検索条件項目を入力した場合、AND 検索を行います。入力された検索条件の項目が全て該当する結果が表示されます。
- 検索条件を全く指定せず、全ての材料を検索することも可能です。ただし、画面に表示される検索結果は 500 件までです。

◎ 検索結果の選択

「材料の選択」画面

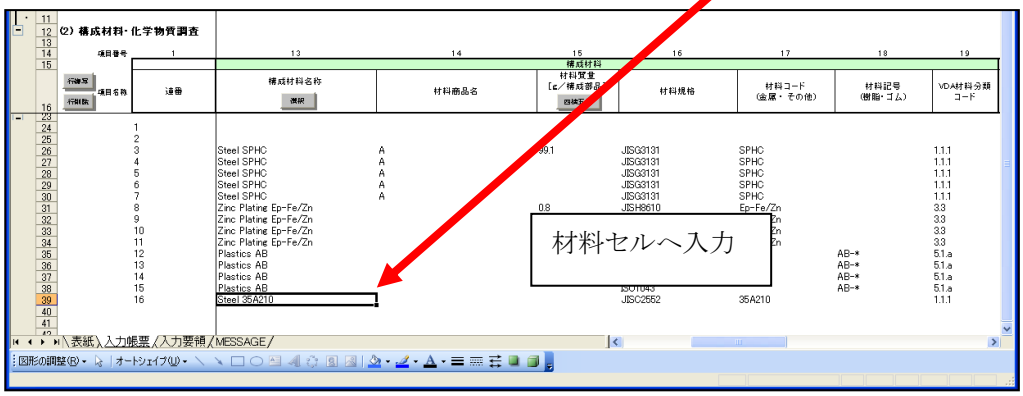
最大 500 件の検索結果が表示されます。
該当する結果を選択し、「OK」ボタンを押します。

◎ ID[材料]が無い材料を選択する場合



◎自動的に入力された材料(物質なし)

入力帳票シート

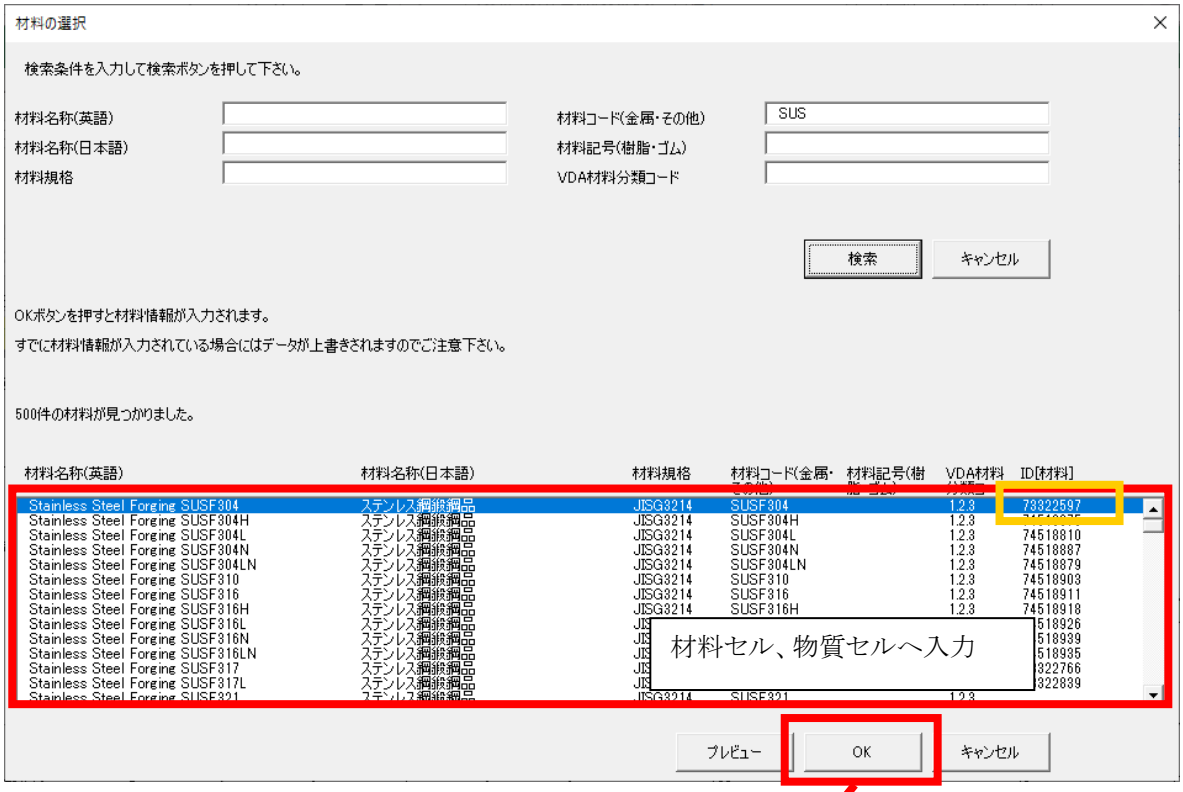


選択した材料の情報が自動的に入力されています。

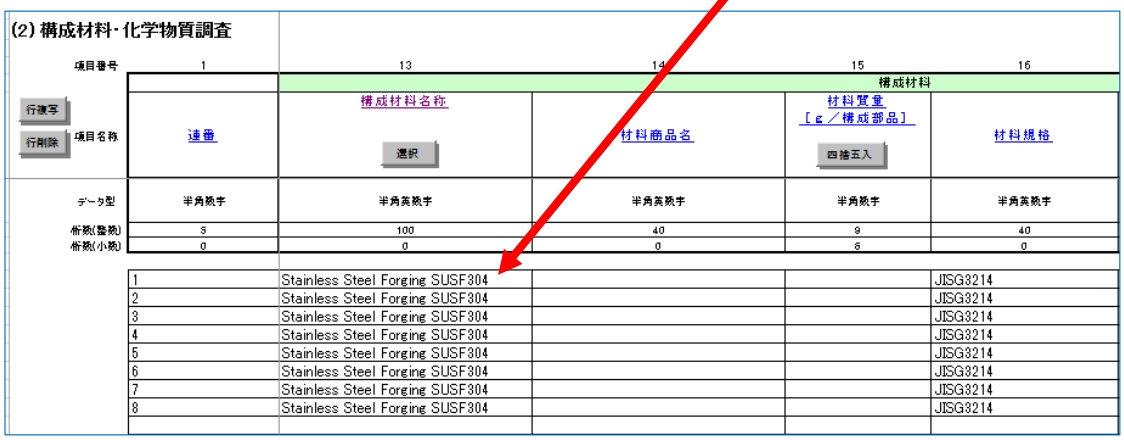
◎ ID[材料]が有る材料を選択する場合

物質を含む材料の場合は、材料および物質が自動的に入力されます。

「材料の選択」画面



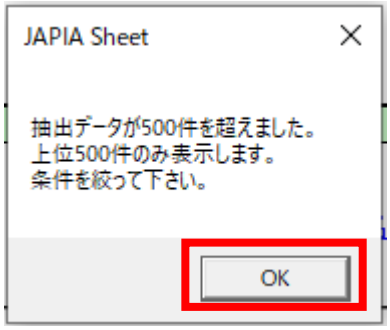
入力帳票シート

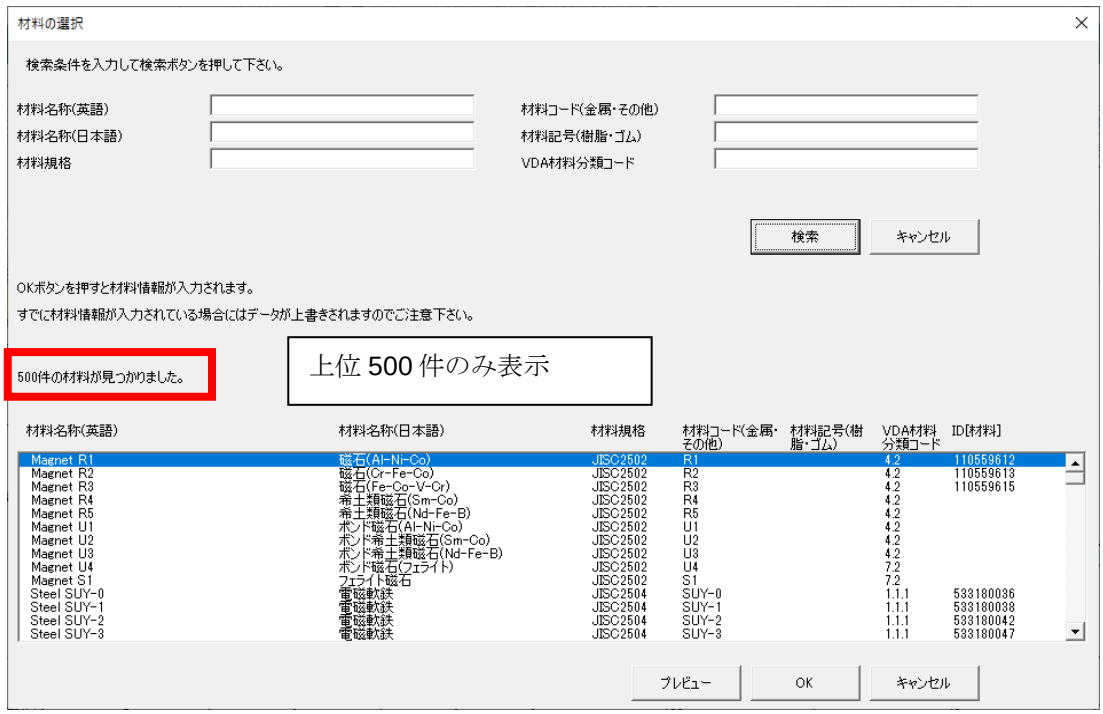


◎ 検索結果が 500 件を超える場合

検索結果が 500 件を超える場合は検索条件を絞るよう指示するメッセージが表示されます。「OK」を押すと材料リストを上から照合し、最初の 500 件のみが表示されます。

検索結果が 500 件を超えた場合

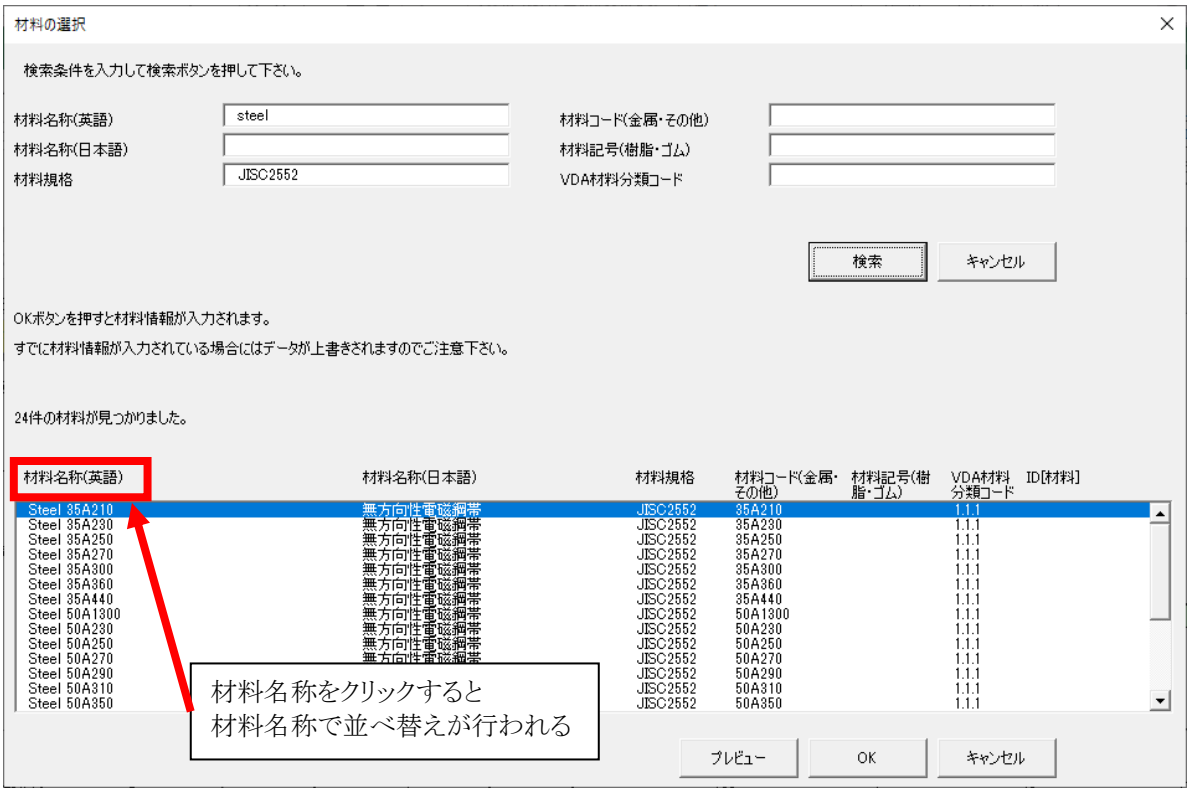




◎ 検索結果の並べ替え

表示された検索結果は並べ替えることができます。並べ替えるには項目名をクリックします。
検索結果が 500 件を超える場合、最初に表示された 500 件の中で並べ替えが行われます。

検索結果の並べ替え



- 既に値が入力されている場合
  検索後、「OK」ボタンを押した時点で既に入力済みの情報がある場合は上書きされます。
  　ただし、物質情報を含む材料を選択した場合は物質の数に応じて行が挿入され、その行に対して物質情報が自動的に入力されます(結果的に”物質の数-1”行が挿入されます)。この際、部品・材料情報は適切に補完され、行複写が行われたのと同じ状態となります。具体的には、納入部品・部品構成については、「行複写」を実施した状態、構成材料については、材料が読み込まれた後、「行複写」を実施した状態となります。行複写に関する詳細は 67 ページ「行をコピー・挿入する(「行複写」ボタン)」をご参照ください。
- 同一材料に材料規格が複数存在する場合
  外部リスト内の同一材料に複数の材料規格が存在する(材料規格以外の項目が全て同一の材料が存在する)場合、検索結果は個別の材料規格毎に複数表示されます。同一部品直下に同一の ID[材料]を持つ材料が複数回含まれる場合はエラーとなりますが、ID[材料]が同一で材料規格が異なる材料が複数回存在する場合もエラーとなります。
- 材料規格の追記
  材料リストから材料データを選択した後に、材料規格を追記することができます(区切り文字はカンマ)。手入力にて追記する場合は必ず後ろに追記します。

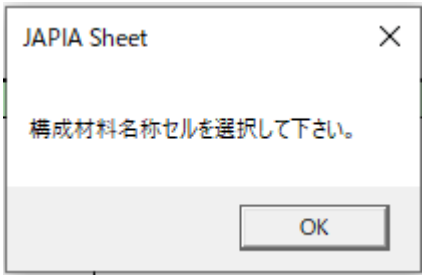
◎ プレビュー機能

「材料の選択」画面の下に表示される検索結果で確認できる文字数は限られています。材料を選択し、「プレビュー」ボタンをクリックすると、選択した材料の情報を別画面で確認することができます。
この画面で「OK」ボタンをクリックすると、入力帳票へ材料が入力されます。一方、「キャンセル」ボタンをクリックすると、検索画面に戻ります。

プレビュー画面

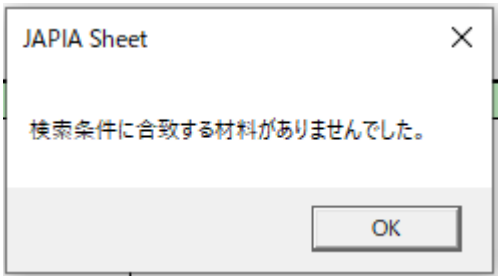
◎ エラーメッセージ

構成材料名称セルを選択していない場合



構成材料名称セルを選択していない場合、エラーメッセージが表示されます。

該当する材料が存在しない場合



該当する材料が存在しない場合、エラーメッセージが表示されます。

◎ 主なエラーチェック項目

- 材料については、材料名称、材料規格、材料コード、材料記号、VDA 材料分類コードの組み合わせが外部リストと一致しない場合、エラーチェック時にエラーが表示されます。
- 物質情報を含む材料を選択した場合はさらに、物質コード、物質名称(英語)、物質含有率(固)、物質含有率(小)、物質含有率(大)、物質含有率(残)、ID[物質]の組み合わせが外部リストと一致しない場合、エラーチェック時に警告が表示され、ID[材料]の値が削除されます。
- 複数の物質を含む材料では、物質の並び順が外部リストと異なる場合も警告が表示され、ID[材料]の値が削除されます。
- 物質情報を含む材料を選択した場合で、外部リストで ID[材料]が指定されているものについては、物質の最小値・最大値の差のチェックは行われません。このチェックについては 66 ページをご参照ください。
- 物質情報を含む材料で ID[材料]が同じ材料が同一構成部品に 2 つ以上追加されている場合、これらは同一材料と見なされエラーが表示されます。
- さらに以下 2 つの条件に当てはまる材料が同一構成部品に 2 つ以上追加されている場合も同一材料と見なされ警告が表示されます：
  - ID[材料]が空欄
  - 以下全ての項目が互いに完全一致
    - ・材料規格
    - ・材料コード
    - ・材料記号
    - ・ポストコンシューマリサイクル材料の割合 最小値および最大値
    - ・物質(ID と含有率の組み合わせ)　※
  - ただし、「登録区分」に「4(支給材料)」が指定されている場合はどのような場合も同一材料とは見なされません。
- 納入部品または同一構成部品の直下に、部品と材料が混在していた場合、警告が表示されます。

■ ID[材料]が外部リストと一致しない場合で、かつ、材料に関する表記が外部リストと一致しない場合、従来はエラーチェック時にエラーが表示されていましたが、Ver3.02 より警告に緩和されました。

※補足　物質の比較について

- 含有率が固定値で指定されている場合
  比較対象の物質の含有率も固定値で指定されていて、値が一致する場合に同一材料と見なされます。
  ただし比較対象が残部の場合は、この下の「含有率が残部で指定されている場合」をご参照ください。
- 含有率が範囲値で指定されている場合
  比較対象の物質も範囲値で指定されていて、最小値と最大値がそれぞれ一致する場合に同一材料と見なされます。中間値が同じでも最大値・最小値が異なる場合は同一材料とは見なされません。
- 含有率が残部で指定されている場合
  比較対象の物質が残部または固定値で、それ以外の全ての物質の含有率が指定方法(固定値/範囲値)も含めて一致している場合に同一材料と見なされます。
- Not found 物質が含まれている場合
  材料に Not found 物質が 1 つ以上含まれている場合は、他のいかなる条件が揃っていても同一材料とは見なされません。

「四捨五入」(材料質量)ボタン

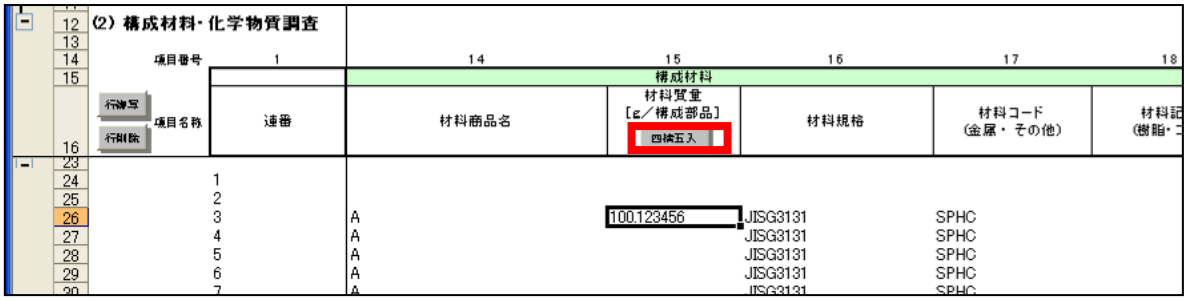
材料質量は手入力します。入力後にこのボタンを押すと、材料質量の小数点以下をユーザーの指定に従って四捨五入します。

- 四捨五入処理の対象
  - 複数のセルを選択すると、選択されたセル全てが四捨五入されます。
  - 列全体を選択すると全ての材料質量が四捨五入されます。
  - いずれの場合も、値が入力されていないセルでは何も起こりません。
- 注意事項
  - 四捨五入後は元のデータは失われ、復元できません。
  - 四捨五入して「0」になる場合は、値が切り上げられます。
    例: 0.0001->0.01[2 桁設定]

操作

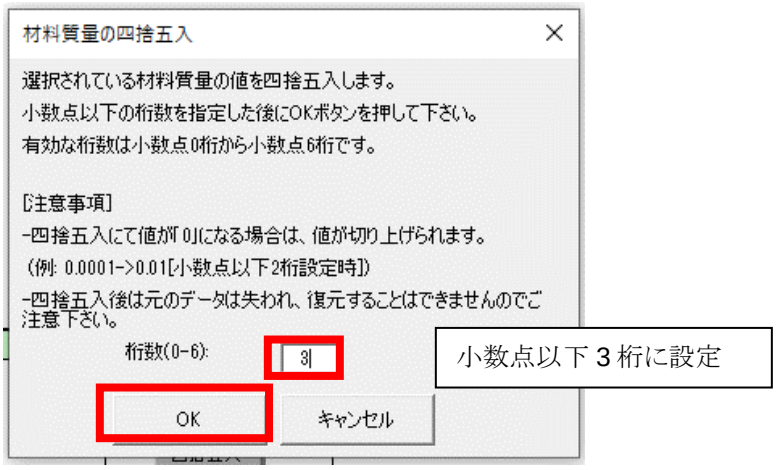
◎ 材料質量を四捨五入する

「四捨五入」(材料質量)ボタン



材料質量が入力された状態で、四捨五入したいセルを選択し、ボタンを押します。

「材料質量の四捨五入」画面



ボタンを押すと「材料質量の四捨五入」画面が表示されます。
この画面「桁数(0-6):」に四捨五入の有効桁数を入力し、「OK」を押します。

四捨五入された材料質量

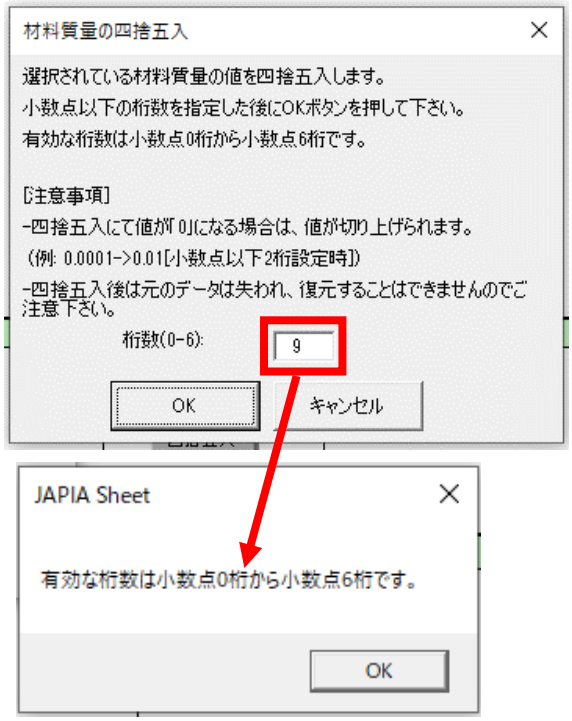
(2) 構成材料・化学物質調査

項目番号	1	14	15	16	17
		構成材料			
行複写 / 行削除 / 項目名称	連番	材料商品名	材料質量［g／構成部品］ 四捨五入	材料規格	材料コー（金属 ・ そ
	1				
	2				
	3	A	100.123	JISG3131	SPHC
	4	A		JISG3131	SPHC
	5	A		JISG3131	SPHC
	6	A		JISG3131	SPHC
	7	A		JISG3131	SPHC
	8		100.1234	JISH8610	Ep-Fe/Zn
	9			JISH8610	Ep-Fe/Zn
	10			JISH8610	Ep-Fe/Zn
	11			JISH8610	Ep-Fe/Zn
	12		100.12	ISO1043	

「OK」ボタンを押すと JAPIA シート上で選択された材料質量セルが四捨五入されます。

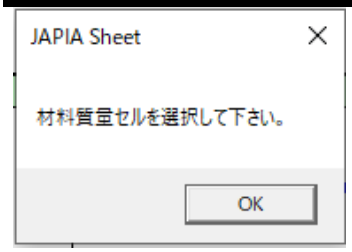
◎ エラーメッセージ

無効な値を設定した場合



無効な値を設定するとエラーメッセージが出力されます。

材料質量以外の列が選択されている場合



材料質量の列以外が選択されている場合はエラーメッセージが表示されます。

3.4.3.5 物質

{調査先}

ここでは材料に含まれる物質の情報を入力します。

物質の各項目はシート上に直接入力することも可能ですが、GADSL[1]の禁止(P), 要申告/禁止（D/P）, 要申告(D)、SVHC、プロセスケミカルの識別情報を含む物質リスト(BSL[2]リスト)は外部リストファイルに記載されています。また、この中に含まれていない物質は検索できないため、手作業で入力する必要があります。

!! 重要 !!

- 同一物質の選択

  物質は物質コード[3]と ID[物質]の組み合わせで区別されます。ただし、物質を検索する際、同一物質コードに対して複数の物質が表示される場合があります。これは地域や企業により物質の呼び方が違うためです。どれを選択するか調査元から指示があった場合は、指示に従ってください。

- リストにない物質の扱い

  検索結果に含まれていない物質を入力する場合、必ず物質コードおよび物質名称を入力します。その際、物質コードのみを入力するとエラーチェックでエラーとなるため、以下のように入力します。

  Not found:XXXXXX-XX-X
  (XXXXXX-XX-X は物質コード)

- 物質カテゴリーが入力されているにも関わらず、材料情報がない場合にはエラーとなります。その際、<u>材料ではなく物質名称に対して</u>エラーが表示されます。

- ワイルドカード物質について

  ワイルドカード物質とは物質リスト(BSL)において、ID[物質]に W で始まる ID[物質]が設定されているものを指します。この物質は便宜上使用されている架空の物質で、（要申告・禁止物質を除く）機密性が高い物質の秘匿、開発中の製品で組成が不明な物質を報告する目的等で使用します。

「選択」(物質コード)ボタン

このボタンを使用すると、JAPIA シート用物質リストに掲載されている物質の中から該当するものを選択することができます。この操作を行うと以下の項目が自動的に各セルに入力されるため、入力作業の負荷が軽減されます。

- 物質コード
- 物質名称
- ID[物質]

操作

◎ 物質の選択

物質コードセルを選択してから「選択」(物質コード)ボタンを押すと、「物質の選択」画面が表示されます。
この画面から材料を検索し、「OK」を押すと、選択した物質がセルに入力されます。

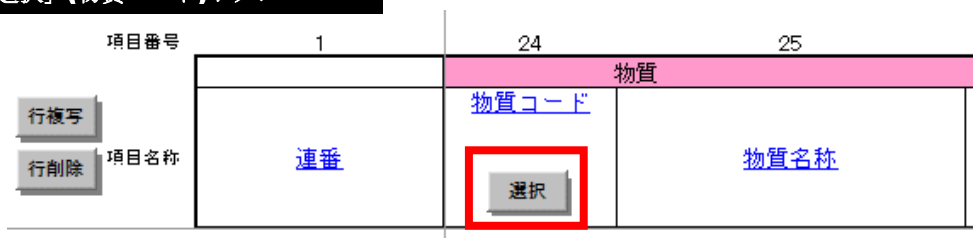
---

[1] Global Automotive Declarable Substance List の略。GASG(Global Automotive Stakeholders Group)の発行する物質リストで、IMDS 上では要申告・禁止物質を確認するために使用される。

[2] Basic Substance List の略。JAPIA シートにおいて選択入力可能な物質のリスト。ユーザからの収載要望に基づき、化学物質調査で必要な物質を収載しています。

[3] Chemical Abstract Service が登録している化学物質データベースにおいて、各物質に割り当てられているコード番号。

「選択」(物質コード)ボタン



「選択」(物質コード)ボタンを押します。

◎ 検索条件の指定、検索

「物質の選択」画面

ボタンを押すと「物質の選択」画面が表示されます。
この画面で検索条件を指定し、「検索」ボタンを押します。

■ <u>検索条件について</u>

- 指定できる検索条件
  以下の検索条件が指定できます。
  - 物質コード(CAS_RN)
  - ID[物質]
  - 物質名称
  - 物質名称(日本語)

- 検索は部分一致で行われます。入力した文字列<u>を含む</u>検索結果が表示されます。
  例

検索条件	iron	
表示される検索結果	**<u>iron</u>**	(一致)
	<u>iron</u> oxide	(で始まる)
	Barium **<u>iron</u>** oxide	(中間)
	Barium **<u>iron</u>**	(で終わる)

- 半角アルファベットの大文字・小文字は区別されません。
  例

検索条件	Ab
表示される検索結果	AB
	Ab
	aB
	ab

- 全角・半角文字は別の文字として区別されています。ご注意ください。
- 検索条件の項目について
  - 全ての検索条件を入力する必要はありません。

- ✧ 複数の検索条件項目を入力した場合、AND 検索を行います。入力された検索条件の項目が全て該当する結果が表示されます。
- ✧ 検索条件を全く指定せず、全ての物質を検索することも可能です。ただし、画面に表示される検索結果は 500 件までです。

◎ 検索結果の選択

「物質の選択」画面

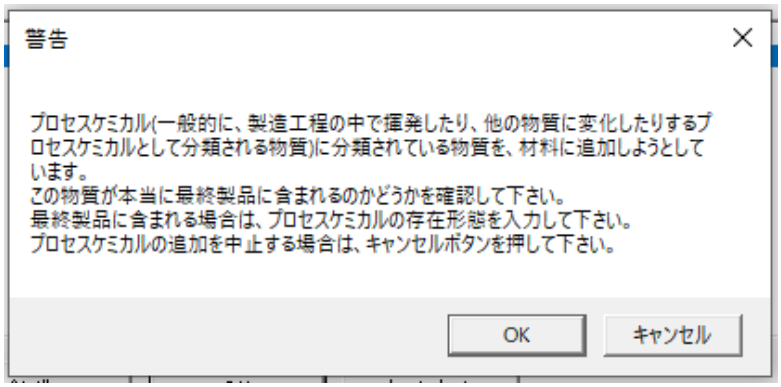
最大 500 件の検索結果が表示されます。

該当する結果を選択し、「OK」ボタンを押します。

◎ 検索結果の選択

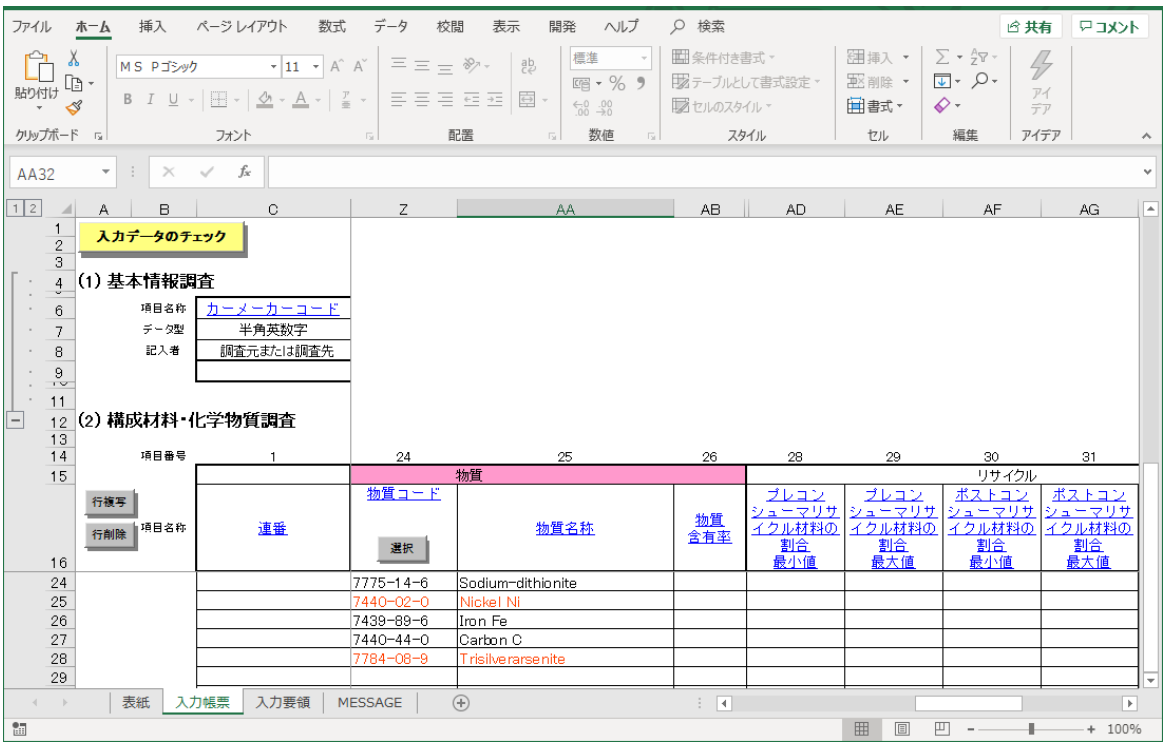
プロセスケミカルを選択して「OK」を押すと、ポップアップで警告が表示されます。この画面で「OK」をクリックすると、入力帳票へ物質が入力され、「キャンセル」をクリックすると、検索画面に戻ります。

プロセスケミカル選択時の警告画面



◎ 自動的に入力された物質

入力帳票シート

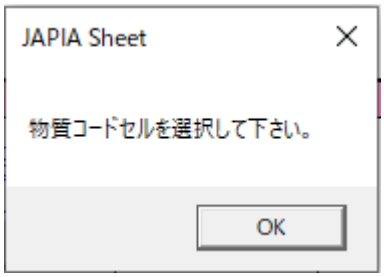


選択した物質の情報が自動的に入力されています。
要申告フラグ(D)と禁止物質フラグ(P)、SVHC フラグの値によって、JAPIA シート上の物質コード、物質名称は色およびフォントが変更されます(D:茶色、D/P:紫色、P:赤色、斜体:SVHC)。

- 既に入力済みの値
  検索後、「OK」ボタンを押した時点で既に入力済みの値がある場合は上書きされます。
- 自動設定
  - 部工会オプション(含有率:最大、最小、残部)が入力されている場合、データチェック時に含有率の代表値が算出され自動設定されます。その際に含有率を上書きする場合、エラーリストに警告が表示されます(2 回目のエラーチェックでは無視されます) 。
  - Not found: XXXXXX-XX-X の形式の場合、CAS_RN をキーにしてリストを検索し一致するものがあれば、警告を表示して物質コード、物質名称、ID[物質]を置き換えます。この形式については 43 ページ「リストにない物質の扱い」をご参照ください。

◎ エラーメッセージ

物質コードのセル以外が選択されている場合



物質コードのセルを選択していない場合、エラーメッセージが表示されます。

物質が存在しない場合

該当する物質が存在しない場合、エラーメッセージが表示されます。

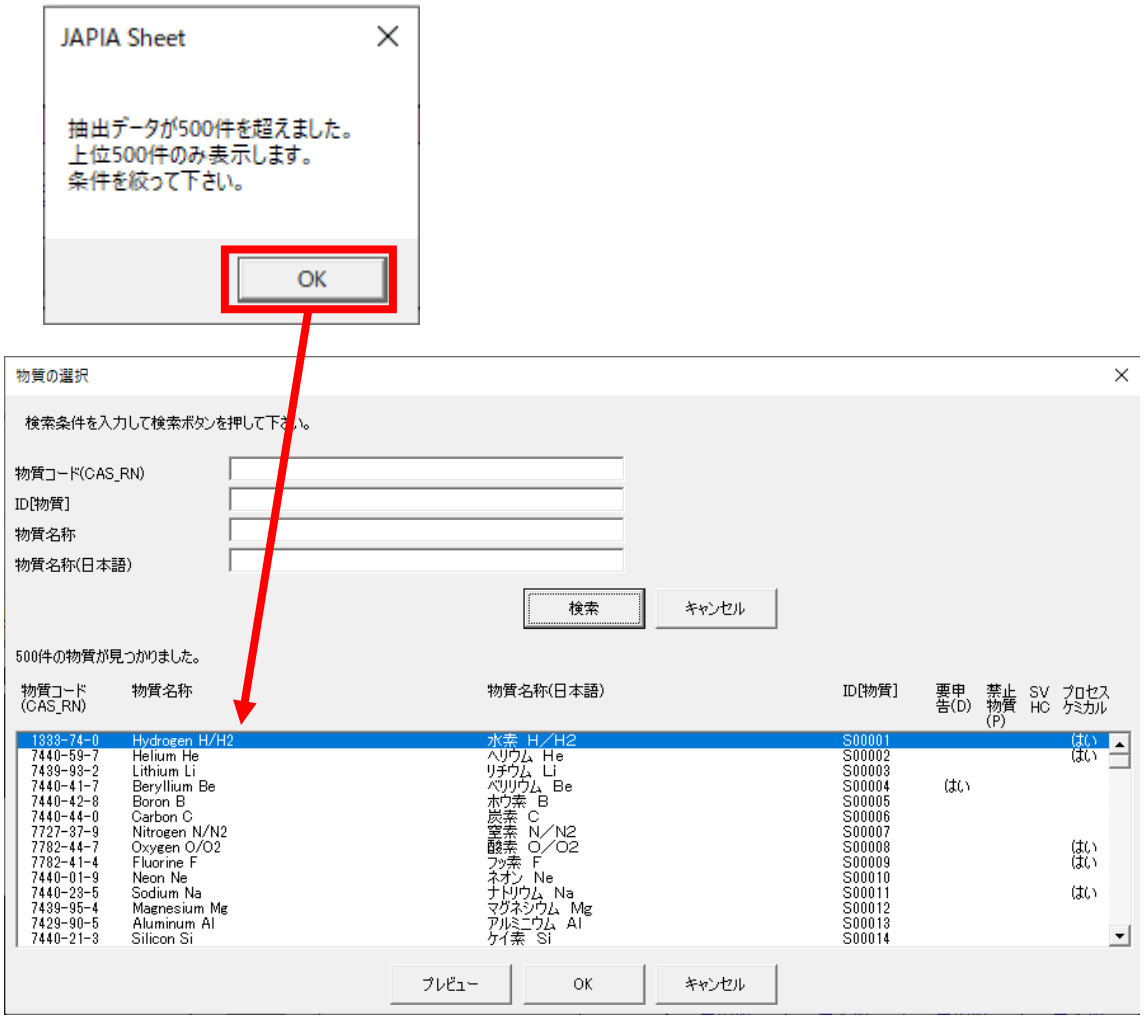
◎ 主なエラーチェック項目

- データがリストから選択されており、物質コードと物質名称と ID[物質]の組み合わせが正しくない場合はエラーが表示されます。
- 物質が入力されている行では、物質含有率が入力されていなければエラーが発生します。
- 物質含有率は構成材料ごとの合計が 100%となる(ワイルドカード物質も合計する)ように入力しなければエラーとなります。
- ワイルドカード物質が 10%を超える場合は警告が表示(CSV 出力は可能)されます。部工会オプション物質含有率（最大値）および（最小値）が入力されていた場合は、最大値が評価対象となります。
- 一つの材料について、同じ物質が複数回入力されていればエラーとなります。
- VDA 材料分類コードが 5.x または 6.x かつ、構成物質が 1 つのみの場合かつ、その含有率が 100%（固定値）、または 1（残部）の場合、警告が表示されます。
- 物質の含有率を範囲指定する場合、最小値と最大値の両方を入力しなければエラーとなります。

◎ 検索結果が 500 件を超える場合

検索結果が 500 件を超える場合は検索条件を絞るよう指示するメッセージが表示されます。「OK」を押すと物質リストを上から照合し、最初の 500 件のみが表示されます。

検索結果が 500 件を超えた場合



◎ プレビュー機能

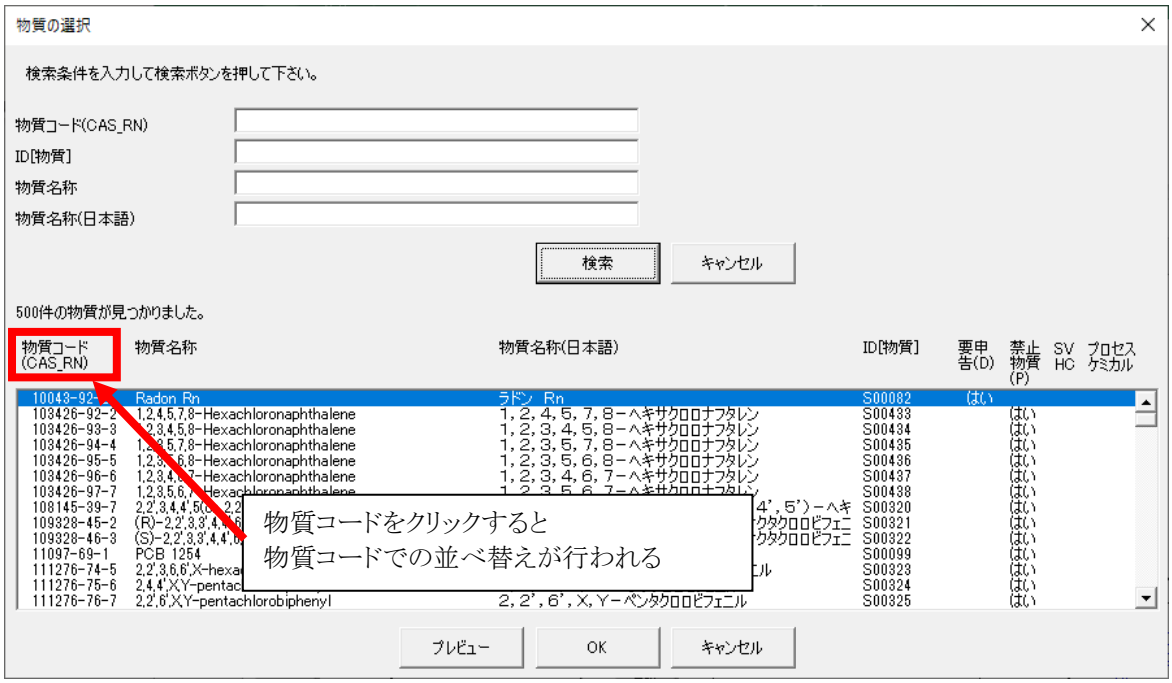
「物質の選択」画面の下に表示される検索結果で確認できる文字数は限られています。物質を選択し、「プレビュー」ボタンをクリックすると、選択した物質の情報を別画面で確認することができます。
この画面で「OK」ボタンをクリックすると、入力帳票へ物質が入力されます。一方、「キャンセル」ボタンをクリックすると、検索画面に戻ります。

プレビュー画面

◎ 検索結果の並べ替え

表示された検索結果は並べ替えることができます。並べ替えるには項目名をクリックします。
検索結果が 500 件を超える場合、最初に表示された 500 件の中で並べ替えが行われます。

検索結果の並べ替え



「選択」(プロセスケミカルの存在形態)ボタン

このボタンを使用すると、プロセスケミカルの存在形態を入力することができます。
材料にプロセスケミカルを追加し、含有率が 0.1%を超えた場合、プロセスケミカルの存在形態の入力が必須となります。なお、プロセスケミカルではない物質にプロセスケミカルの存在形態を入力すると、エラーチェックにおいて自動削除されます。
プロセスケミカルの存在形態の選択肢は以下の 3 種類です。

- Intended use(意図的使用)
- Reaction residue(反応残留物)
- Impurity(不純物)

操作

◎ プロセスケミカルの存在形態の選択

プロセスケミカルの存在形態セルを選択してから「選択」(プロセスケミカルの存在形態)ボタンを押すと、「プロセスケミカル存在形態の選択」画面が表示されます。この画面からプロセスケミカルの存在形態を選択し、「OK」を押すと、選択したプロセスケミカルの存在形態に対応する存在形態コード(Intended use(意図的使用)…1、Reaction residue(反応残留物)…2、Impurity(不純物)…3)がセルに入力されます。

「選択」(プロセスケミカルの存在形態)ボタン

「選択」(プロセスケミカルの存在形態)ボタンを押します。

「プロセスケミカルの存在形態の選択」画面

ボタンを押すと、「プロセスケミカルの存在形態の選択」画面が表示されます。
この画面で適切なプロセスケミカルの存在形態を指定し、「OK」ボタンを押します。

3.4.3.6 リサイクル

{調査先}

ここではリサイクル情報を入力します。

各項目に関して不明な点があれば、項目名をクリックして入力要領を確認してください(詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご参照ください)。

- 入力必須条件
  - プレコンシューマリサイクル材料の割合 / ポストコンシューマリサイクル材料の割合
    VDA 材料分類コードが 1.x, 2.x, 3.x, 4.x, 5.x, 7.1, 7.2 の材料に対しては入力が必須となります。同一材料に対して複数行が存在する場合は最初の行にのみ入力します。
  - 材質表示
    VDA 材料分類コード 5.1.x,5.4.x,5.5.x の材料で質量の合計が 100g を超える場合または VDA 材料分類コード 5.2,5.3 の材料で質量の合計が 200g を超える場合に入力が必須となります。同一部品に対して複数行が存在する場合は最初の行にのみ入力します。
    ※ただし、JAPIA シートでは VDA 材料分類コード 5.5.x は選択できません。

- プレコンシューマリサイクル材料の割合 / ポストコンシューマリサイクル材料の割合の自動設定
  エラーチェック時、各項目が以下の通り自動設定されます。
  - 上述の入力必須条件に当てはまり、かつ以下の条件に該当する場合、値が以下の通り自動設定されます。
    - 最小値か最大値の片方のみが入力されている場合、その値が他方にコピーされる
    - 最小値と最大値の両方が未入力の場合、両者に「0」が入力される
  - プレコンシューマリサイクル材料の割合 / ポストコンシューマリサイクル材料の割合が必須でない場合は何も変更されません。

3.4.3.7 その他

{調査先}

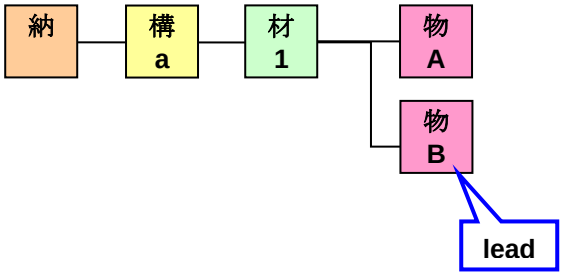
ここではアプリケーションコードを入力します。

アプリケーションはシート上に直接入力することも可能ですが、入力可能なアプリケーションは外部リストファイルに記載されており、その中から選択することができます。この中に含まれていないアプリケーションは入力できません。

!! 重要 !!

- 選択可能なアプリケーション
  アプリケーションは多数存在しますが、全てが画面に表示されるわけではなく、その中で選択肢となりうるもののみが画面上に表示されます。
  具体的には以下の項目によって画面に表示されるアプリケーションが決まります。
  このため、アプリケーションの選択前に必ず以下の 3 項目が入力されている必要があります。
  - 物質(物質コード、物質名称、ID[物質])
  - 物質の含有率(各アプリケーションが適用可能な含有率の上限が定められています)
    部工会オプションの物質含有率(最小値・最大値)を使用する場合、最小値・最大値だけではなく物質含有率(固定値)が自動計算された状態でなければアプリケーションの選択ができません。詳細は 64 ページ「物質含有率(最小値/最大値/残部)」をご参照ください。
  - 物質を含む材料の VDA 材料分類
- アプリケーションが必要な行

例　アプリケーションが必要な行



上述の例では、物質 B(lead)が IMDS でアプリケーションが必要と定義された物質のため、アプリケーションコードの指定を行う必要があります。

各項目に関して不明な点があれば、項目名をクリックして入力要領を確認してください(詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご参照ください)。

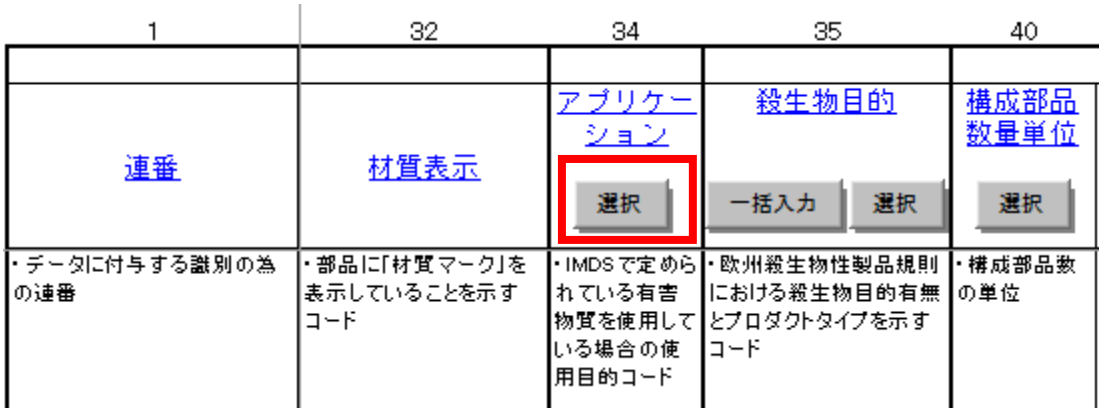
「選択」(アプリケーション)ボタン

このボタンを使用すると、JAPIA シート用アプリケーションコードリストに掲載されているアプリケーションの中から、該当するものを選択することができます。この操作を行うとアプリケーションが自動的にセルに入力されるため、入力作業の負荷が軽減されます。

操作

◎ アプリケーションの選択

「選択」(アプリケーション)ボタン

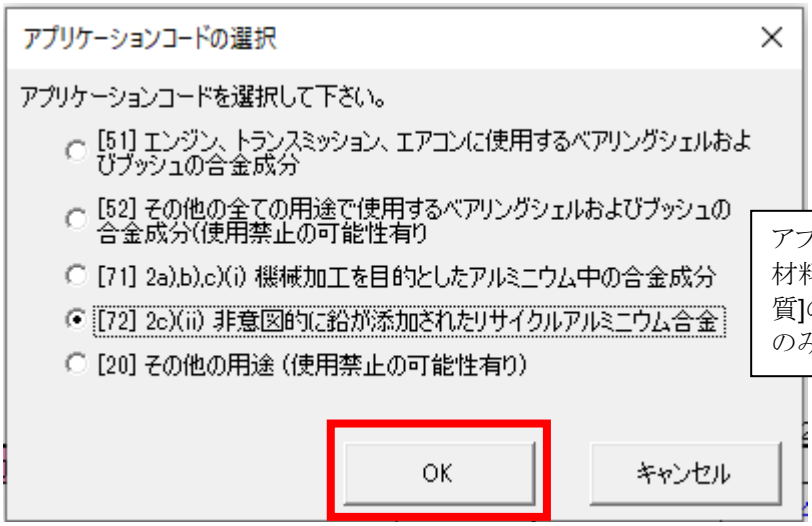


「選択」(アプリケーション)ボタンを押します。

◎ アプリケーションの指定

「アプリケーションコードの選択」画面

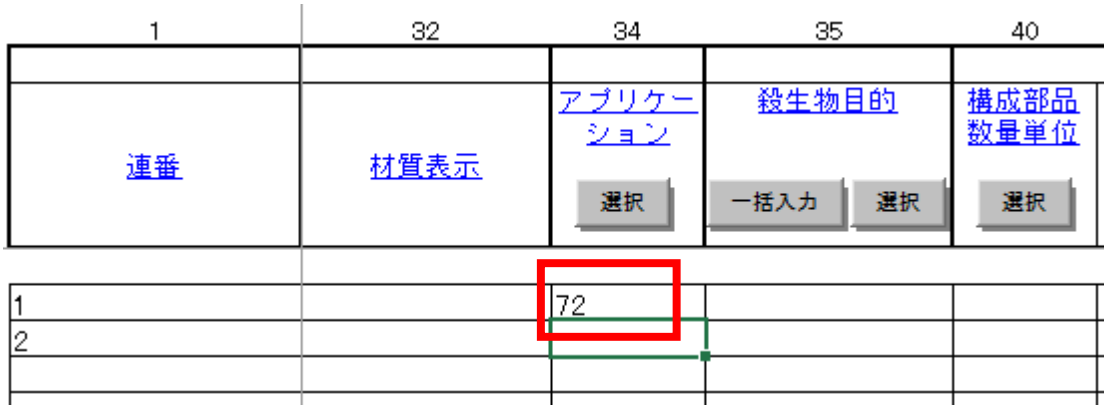
ボタンを押すと「アプリケーションコードの選択」画面が表示されます。
この画面に表示されているアプリケーションコードは、54 ページ「選択可能なアプリケーション」に記載された条件で絞り込まれています。このため、新たに検索条件を指定して検索する必要はありません。
この画面でアプリケーションコードを選択し、「OK」を押します。



アプリケーションの選択肢は、VDA 材料分類コード、物質含有率、ID[物質]の組み合わせから有効な選択肢のみが表示されます

◎ 自動的に入力されたアプリケーション

入力帳票シート

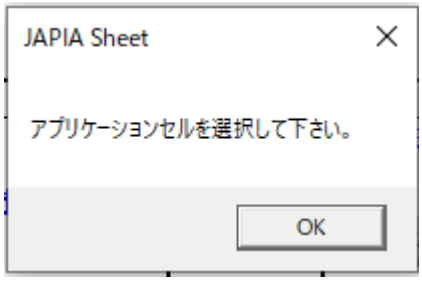


選択したアプリケーションが自動的に入力されています。

- 自動設定
  物質コードが Not found:xxxxxx-xx-x で指定されている場合、先にその CAS_RN に該当する物質があるかをチェックし、あれば ID[物質]に ID を設定します。この形式については 43 ページ「リストにない物質の扱い」をご参照ください。

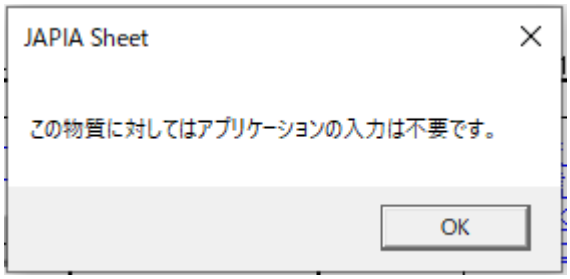
◎ エラーメッセージ

アプリケーション以外のセルが選択されている場合



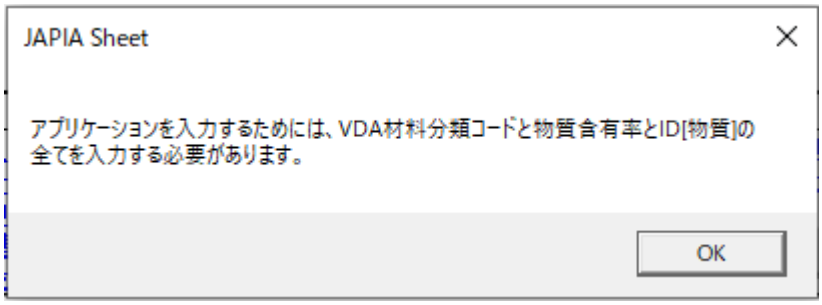
アプリケーション以外のセルが選択されている場合、エラーメッセージが表示されます。

アプリケーションが不要な場合



アプリケーションコードの設定が不要な物質に対して上述の操作を行うと、エラーメッセージが表示されます。

必要な情報が未入力の場合



VDA 材料分類コード、物質含有率、ID[物質]のいずれかが未入力の場合に上述の操作を行うと、エラーメッセージが表示されます。

◎ 主なエラーチェック項目

- 外部リストに含まれないアプリケーションを選択するとエラーが発生します。
- アプリケーションが必要な物質の場合、アプリケーション未指定ではエラーが発生します。
- 物質 ID、VDA 材料分類コード、物質含有率と選択可能なコードの組合せに誤りがあればエラーが発生します。
- アプリケーションが不要な物質にアプリケーションが指定されているとエラーが発生します。

3.4.3.8 殺生物目的

{調査先}

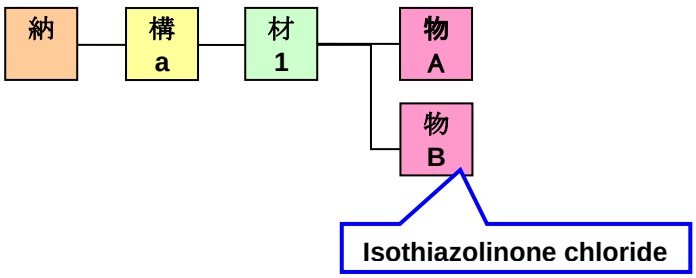
ここでは殺生物目的の有無とプロダクトタイプを入力します。

殺生物目的はシート上に直接入力することも可能ですが、入力可能な殺生物目的/プロダクトタイプは外部リストファイルに記載されており、その中から選択することができます。この中に含まれていない殺生物目的/プロダクトタイプは入力できません。

!! 重要 !!

- 選択可能な殺生物目的/プロダクトタイプ
  殺生物目的/プロダクトタイプは多数存在しますが、全てが画面に表示されるわけではなく、その中で選択肢となりうるもののみがポップアップ画面上に表示されます。
- 殺生物目的/プロダクトタイプが必要な行

例　殺生物目的/プロダクトタイプが必要な行



上述の例では、物質 B(Isothiazolinone chloride)が IMDS で殺生物目的/プロダクトタイプが必要と定義された物質のため、殺生物目的/プロダクトタイプの指定を行う必要があります。

各項目に関して不明な点があれば、項目名をクリックして入力要領を確認してください(詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご参照ください)。

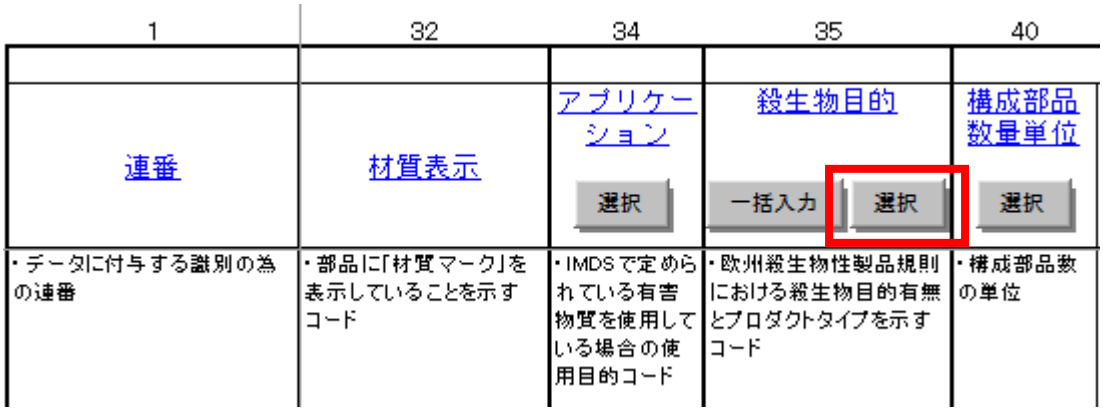
「選択」(殺生物目的)ボタン

このボタンを使用すると、JAPIA シート用殺生物目的/プロダクトタイプリストに掲載されている殺生物目的/プロダクトタイプの中から、該当するものを選択することができます。この操作を行うと殺生物目的/プロダクトタイプが自動的にセルに入力されるため、入力作業の負荷が軽減されます。

操作

◎ 殺生物目的/プロダクトタイプの選択

「選択」(殺生物目的)ボタン

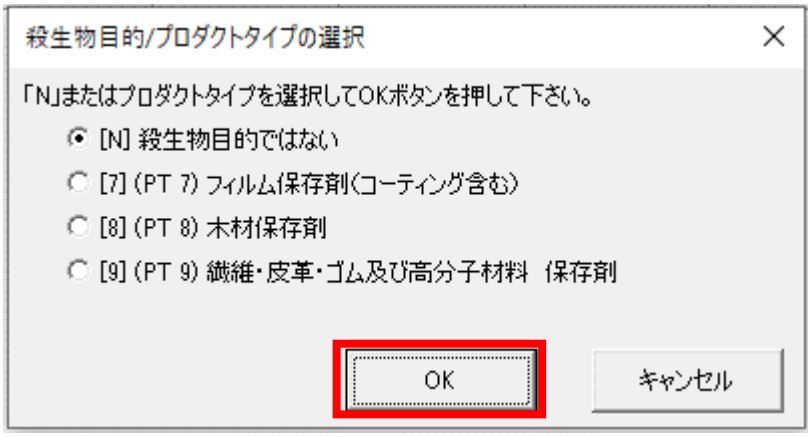


「選択」(殺生物目的)ボタンを押します。

◎ 殺生物目的/プロダクトタイプの指定

「殺生物目的/プロダクトタイプの選択」画面

ボタンを押すと「殺生物目的/プロダクトタイプの選択」画面が表示されます。
この画面で N またはプロダクトタイプを選択し、「OK」を押します。



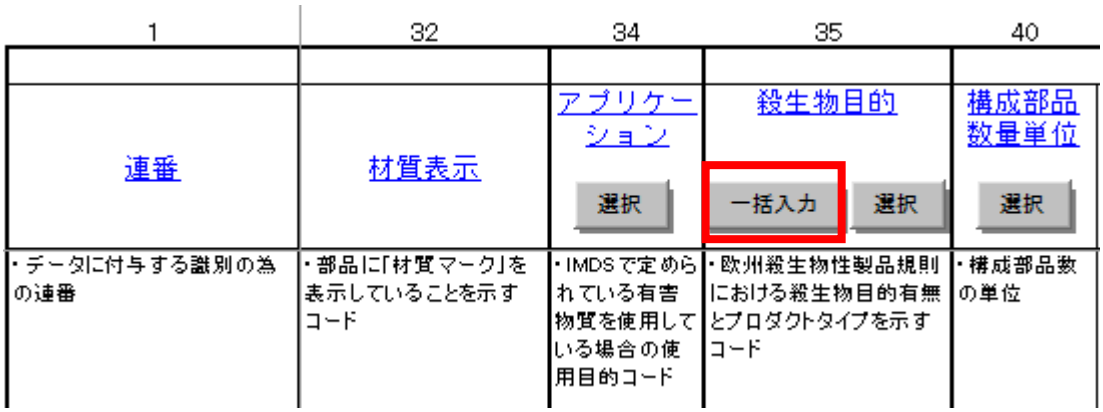
「一括入力」(殺生物目的)ボタン

このボタンを使用すると、殺生物目的の対象物質行に「N」(殺生物目的ではない)が自動的にセルに入力されるため、入力作業の負荷が軽減されます。

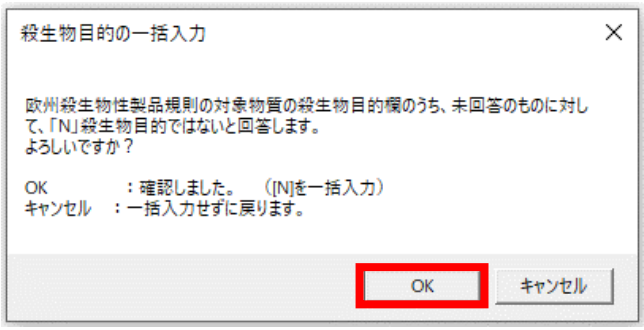
操作

◎ 殺生物目的/プロダクトタイプの選択

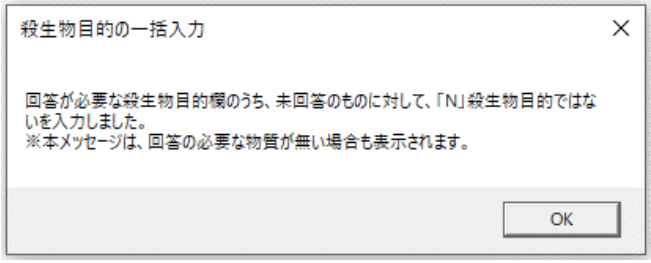
「一括入力」(殺生物目的)ボタン



「一括入力」(殺生物目的)ボタンを押します。

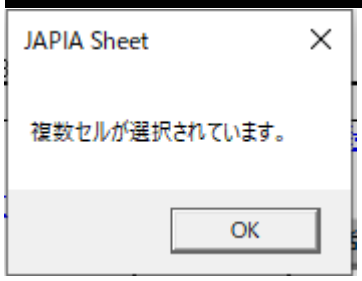


ボタンを押すと「殺生物目的の一括入力」画面が表示されます。
この確認画面で「OK」を押します。
一括入力した旨のメッセージが表示され、対象物質行に「N」(殺生物目的ではない)が自動設定されます。



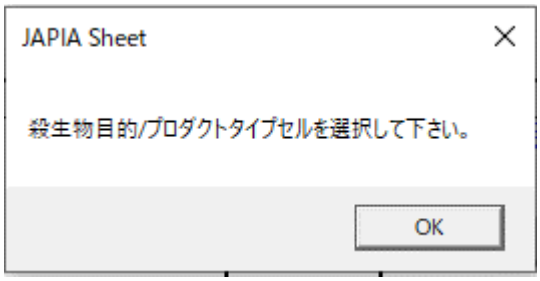
◎ エラーメッセージ

選択セルが複数の場合



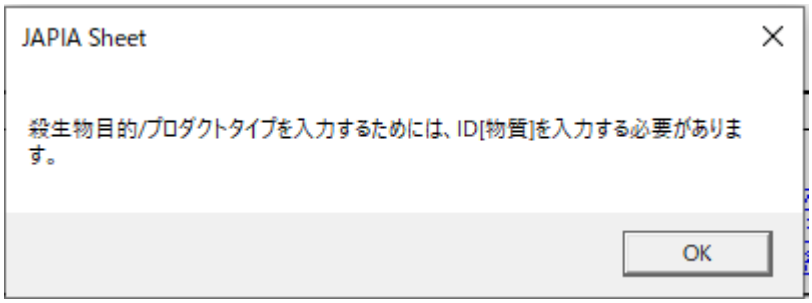
選択セルが複数の場合、エラーメッセージが表示されます。

殺生物目的以外のセルが選択されている場合

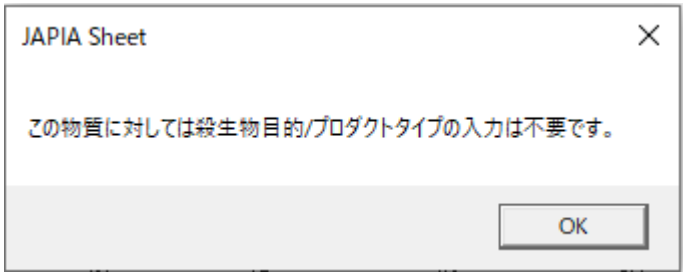


殺生物目的以外のセルが選択されている場合、エラーメッセージが表示されます。

選択行の ID[物質]がない場合



選択行の ID[物質]がない場合、エラーメッセージが表示されます。



選択した物質が BPR 対象物質ではない場合、エラーメッセージが表示されます。

◎ 主なエラーチェック項目

- ID[物質]がバイオサイド規制対象の物質グループに含まれている場合、対象セルに「N」または、プロダクトタイプが記入されていない場合、エラーが発生します。
- ID[物質]がバイオサイド規制対象の物質グループに含まれていなかった場合、対象セルに値が入っている場合、警告が発生し値を削除します。

3.4.3.9 部工会オプション

{調査先}

【調査元】または{調査先}

各項目に関して不明な点があれば、項目名をクリックして入力要領を確認してください(詳細は 14 ページ「入力項目の意味や項目別の入力方法を確認する(入力要領)」をご参照ください)。

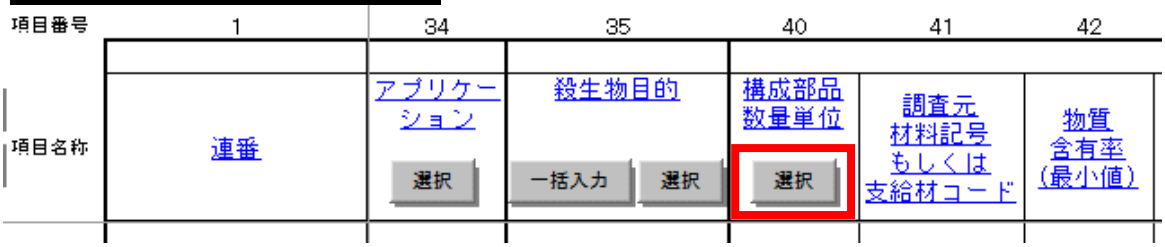
「選択」(構成部品数量単位)ボタン

このボタンを使用すると、JAPIA シート用構成部品数量単位リストに掲載されている構成部品数量単位の中から、該当するものを選択することができます。この操作を行うと構成部品数量単位が自動的にセルに入力されるため、入力作業の負荷が軽減されます。JAPIA シート用構成部品数量単位リストは外部リストファイルに記載されています。同一の構成部品については、全ての行に同じ単位が入力する必要があります。全ての行に同じ単位が入力されていない場合、エラーチェックでエラーが発生します。

操作

◎ 構成部品数量単位の選択

「選択」(構成部品数量単位)ボタン



「選択」(構成部品数量単位)ボタンを押します。

◎ 構成部品数量単位の指定

「構成部品数量単位の選択」画面

ボタンを押すと「構成部品数量単位の選択」画面が表示されます。

この画面で構成部品数量単位を選択し、「OK」を押します。

自動的に入力された構成部品数量単位

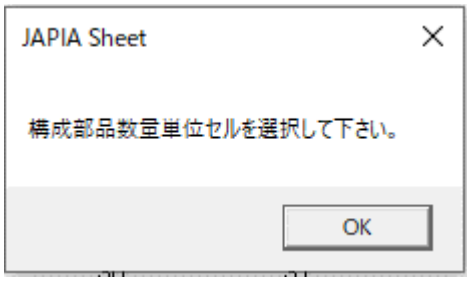
入力帳票シート

1	40	41	42	43	44
				部工会オプション	
連番	構成部品数量単位 選択	調査元材料記号もしくは支給材コード	物質含有率(最小値)	物質含有率(最大値)	物質含有率(残部)
半角数字	半角英数字	半角英数字	半角数字	半角数字	1(半角)
5	8	20	10	10	1
0	0	0	6	6	0
1	each				
2					

選択した構成部品数量単位が自動的に入力されています。

◎ エラーメッセージ

構成部品数量単位以外のセルが選択されている場合



構成部品数量単位以外のセルが選択されている場合、エラーメッセージが表示されます。

物質含有率(最小値/最大値/残部)

物質含有率(最小値/最大値/残部)が入力された後にエラーチェックを行うと、物質の「含有率」カラムが強制的に自動計算値で上書きされます(警告は表示されますが変更を元には戻せません)。
エラーチェックの際、含有率の値は同一材料の物質の含有率合計が 100%となるように自動的に計算されます。
最大値・最小値を入力しただけでなく残部も選択した場合、「最大値の合計が 100%未満の場合」であれば、合計 100%になるよう計算します。

例 通常の入力

入力した値

	物質 含有率	物質 含有率 (最小値)	物質 含有率 (最大値)	物質 含有率 (残部)
物質 A	(空欄)	10%	20%	(空欄)
物質 B	(空欄)	10%	20%	(空欄)
物質 C	(空欄)	(空欄)	(空欄)	1

自動計算後

	物質 含有率	物質 含有率 (最小値)	物質 含有率 (最大値)	物質 含有率 (残部)
物質 A	**15**%	10%	20%	(空欄)
物質 B	**15**%	10%	20%	(空欄)
物質 C	**70**%	(空欄)	(空欄)	1

問題の発生するケース 1

- ✧ 最大値・最小値を入力した場合で、「最大値の合計が 100%未満」の場合、合計 100%になることはありません。その際はエラーとなります。この場合、物質含有率は最大値と最小値の中間値となります。

例 最大値の合計が 100%未満の場合

入力した値

	物質 含有率	物質 含有率 (最小値)	物質 含有率 (最大値)	物質 含有率 (残部)
物質 A	(空欄)	10%	20%	(空欄)
物質 B	(空欄)	10%	20%	(空欄)
物質 C	(空欄)	10%	20%	(空欄)

自動計算後

	物質 含有率	物質 含有率 (最小値)	物質 含有率 (最大値)	物質 含有率 (残部)
物質 A	**15**%	10%	20%	(空欄)
物質 B	**15**%	10%	20%	(空欄)
物質 C	**15**%	10%	20%	(空欄)

問題の発生するケース 2

✧ 最大値・最小値を入力した場合で、「最小値の合計が 100%を超える」場合、合計 100%になることはありません。その際はエラーとなります。この場合、物質含有率は最大値と最小値の中間値となります。

例 最小値の合計が 100%を超える場合

自動計算後

	物質含有率	物質含有率(最小値)	物質含有率(最大値)	物質含有率(残部)
物質 A	**95**%	90%	100%	(空欄)
物質 B	**95**%	90%	100%	(空欄)
物質 C	**95**%	90%	100%	(空欄)

問題の発生するケース 3

✧ 最大値・最小値を入力しただけでなく残部も選択した場合、「最小値の合計が 100%以上」の場合、残部を利用して合計 100%になるよう調整します。その結果、残部の値はマイナスの値や 0%が入ることになるためエラーとなります。一方、残部を指定していない物質含有率は最大値と最小値の中間値となります。

例 最大値の合計が 100%以上で、残部を選択している場合

ユーザーが入力した値

	物質含有率	物質含有率(最小値)	物質含有率(最大値)	物質含有率(残部)
物質 A	(空欄)	90%	100%	(空欄)
物質 B	(空欄)	90%	100%	(空欄)
物質 C	(空欄)	(空欄)	(空欄)	1

自動計算後

	物質含有率	物質含有率(最小値)	物質含有率(最大値)	物質含有率(残部)
物質 A	**95**%	90%	100%	(空欄)
物質 B	**95**%	90%	100%	(空欄)
物質 C	**-90**%	(空欄)	(空欄)	1

◎ 主なエラーチェック項目

- 最大値･最小値を入力する場合、最大値と最小値の差が以下に定められた値を超えると警告が発生します。
- 許容される最大値･最小値の差は、物質含有率の最小値によって異なります。

含有率: 最小値LL% 最大値UL%	物質の範囲値の差 許容値M = UL% - LL%
0 ≤ LL ≤ 7.5	M ≤ 3
7.5 < LL ≤ 20	M ≤ 5
20 < LL ≤ 100	M ≤ 10

- 検索[材料]を使用して物質情報を含む材料を選択した場合、外部リストで ID[材料]が指定されているものについては、このチェックは行われません。

3.5 行・列のコピー・挿入・削除について

入力帳票において列の挿入や削除を行った場合、JAPIA シートの各機能の動作は保証されません。

同様に、**項目名称等のラベル部分(データ行以外)に行を挿入することも認められません。**この場合も動作の保証はされません。

*ただし、シートは保護されているため通常の操作では行・列の挿入・削除を行うことはできません。

3.5.1 行をコピー・挿入する(「行複写」ボタン)

セルの内容を別の行にコピーしたい場合、手作業でコピーすることも可能です。ただし、納入部品の部品質量のように 1 行目と他の行で入力すべきデータが異なる場合があります。このような場合、「行複写」ボタンを使用することでエラーを回避できます。

「行複写」ボタンは、選択された行の内容をコピーし、直後の行に挿入します。ただし、以下のフィールドについては内容をコピーしません。

- 納入部品質量
- 構成部品質量 A
- 材料質量
- 含有数整理番号
- プロセスケミカルの存在形態
- 物質コード
- 物質名称
- 物質含有率
- プレコンシューマリサイクル材料の割合
- ポストコンシューマリサイクル材料の割合
- 材質表示
- アプリケーション
- ID[材料]
- ID[物質]

複数行(連続したデータ行)をコピーすることも可能です。

間の空いている複数行(例:1 行目、2 行目、4 行目)をコピー元として選択することはできません。

例

2 行目を行複写する

連番	納入部品	構成部品	材料	物質	…
1	X				
2	X	1			
3	X	2			
4	X	2			

新たに 3 行目が挿入され、2 行目の内容が複写されます(連番は自動調整されます)。

連番	納入部品	構成部品	材料	物質	…
1	X				
2	X	1			
3	X	1			
4	X	2			
5	X	2			

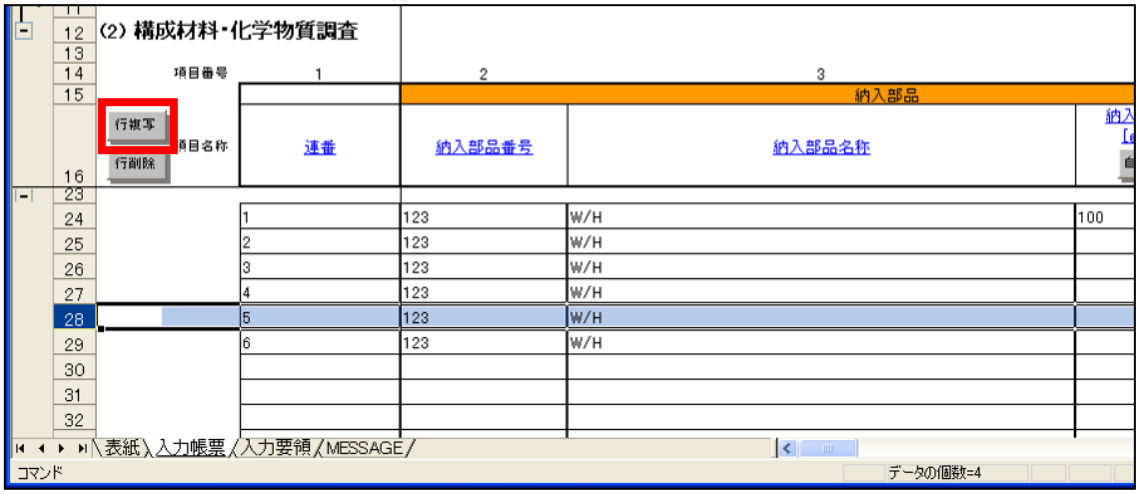
これまで 3，4 行目にあった行はそれぞれ 4，5 行目となります。

操作

◎ コピー元の選択、行複写

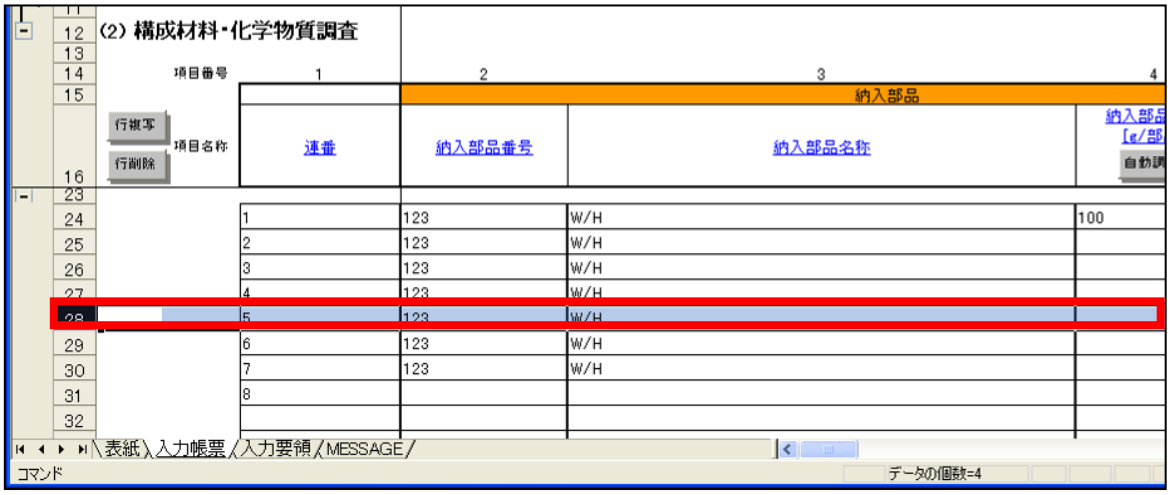
選択、行複写

行を選択し、「行複写」ボタンを押します。



◎ コピー・挿入された行

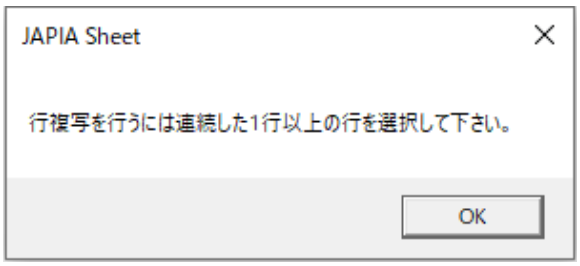
コピー・挿入された行



選択された行の下に新しい行がコピー・挿入されています。

◎ エラーメッセージ

行が選択されていない場合

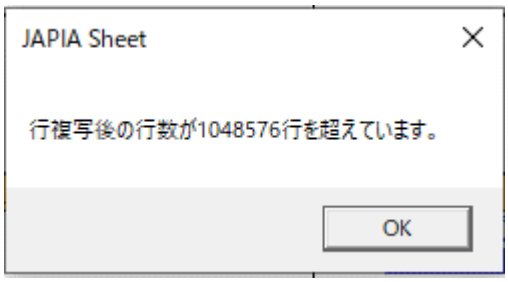


行が選択されていない場合はエラーメッセージが表示されます。

不連続行が選択されている場合

間の空いている複数行を選択している場合にもエラーメッセージが表示されます。

Excel の最大行数を超える場合



行複写後の行数が Excel の最大行数を超える場合はエラーメッセージが表示されます。

3.5.2 行を削除する(「行削除」ボタン)

「行削除」ボタンは、選択された行を削除します。

通常の Excel の操作で行を削除することはできません。また、途中の行を削除する場合は連番を調整する必要があります。そこで、「行削除」ボタンを使用します。

「行削除」ボタンは、選択された行を削除し、以降の行の連番を調整します。

複数行(連続したデータ行)を削除することも可能です。

間の空いている複数行(例:1 行目、2 行目、4 行目)を削除対象として選択することはできません。

例

2 行目を削除する

連番	納入部品	構成部品	材料	物質	…
1	X				
2	X	1			
3	X	2			
4	X	2			

これまで 3,4 行目にあった行はそれぞれ 2,3 行目となります。

連番	納入部品	構成部品	材料	物質	…
1	X				
2	X	2			
3	X	2			

操作

◎ 削除対象行の選択、行削除

選択、行削除

(2) 構成材料・化学物質調査

項目番号	1	3	4	5	6	7	8
		納入部品					
行複写 / 行削除 / 項目名称	連番	納入部品名称	納入部品質量［g/部品］ 自動調整	設計変更番号	登録済区分 選択	構成番号	構成部品番号
	1	W/H	470.7	PEIS00001		1	
	2	W/H		PEIS00001		1	
	3	W/H		PEIS00001		2	18018403930
	4	W/H		PEIS00001		2	18018403930
	5	W/H		PEIS00001		2	18018403930
	6	W/H		PEIS00001		2	18018403930
	7	W/H		PEIS00001		2	18018403930
	8	W/H		PEIS00001		2	18018403930
	9	W/H		PEIS00001		2	18018403930
	10	W/H		PEIS00001		2	18018403934

行を選択し、「行削除」ボタンを押します。

◎ 行が削除される

削除された結果

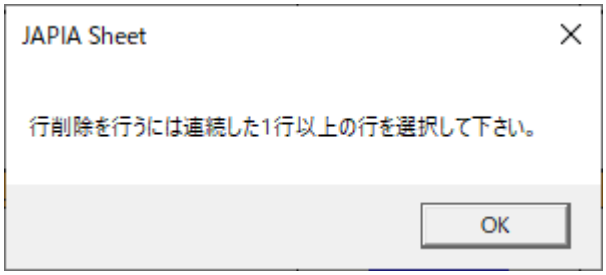
(2) 構成材料・化学物質調査

項目番号	1	3	4	5
行複写 / 行削除 / 項目名称	連番	納入部品名称	納入部品質量［g/部品］ 自動調整	設計変更番号
	1	W/H		PEIS00001
	2	W/H		PEIS00001
	3	W/H		PEIS00001
	4	W/H		PEIS00001
	5	W/H		PEIS00001
	6	W/H		PEIS00001
	7	W/H		PEIS00001
	8	W/H		PEIS00001
	9	W/H		PEIS00001

連番が自動調整されています。

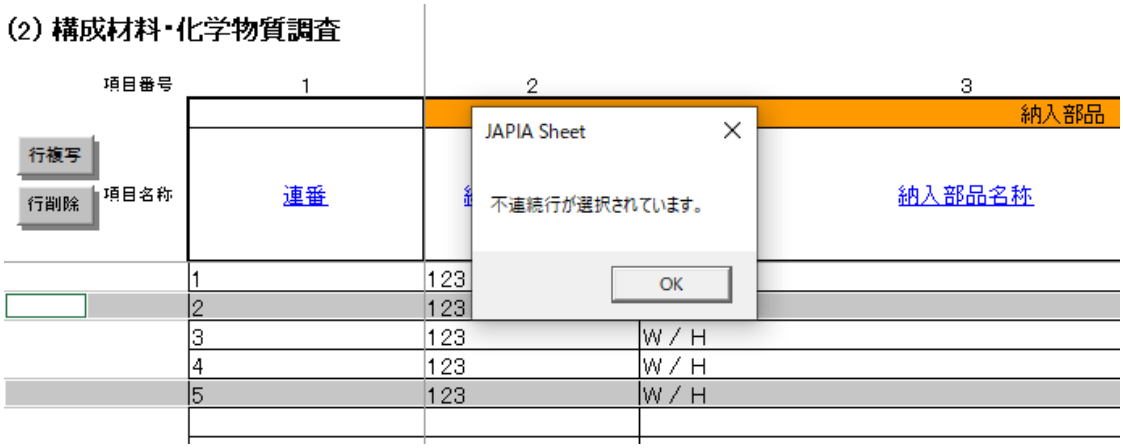
◎ エラーメッセージ

行が選択されていない場合



行が選択されていない場合はエラーメッセージが表示されます。

不連続行が選択されている場合



間の空いている複数行を選択している場合にもエラーメッセージが表示されます。

3.6 入力したデータに誤りがないか確認する(入力データのチェック)

入力が終了したら、「入力データのチェック」ボタンを押すことで、データの整合性のチェックを行うことができます。具体的には以下のようなデータの確認を行うことになります。

- 構成材料項目データの置換（Ver.3.00 以降）
  以下動作後の入力データのチェック初回時のみ、外部リストテーブルに従って構成材料項目データを置換
  - ・ JAPIA シートの起動
  - ・ CSV ファイルの取り込み
  - ・ 一括クリア
- 各項目のデータ型のチェック
- ツリー構造の矛盾や親子間での質量不一致などのデータ整合性のチェック
- IMDS のエラー制御に準じたデータチェック

チェックが終了すると結果が「MESSAGE」シートに表示されます。問題がなければその旨が表示され、問題があればエラーや警告が一覧表示されます。表示形式は以下の通りです。

列A	列B
D35	[mes3:エラー] この項目は入力必須項目です。

エラー箇所

エラーコード
[エラー番号：エラー/警告]
(警告の場合は「警告」と表示)

エラーメッセージ

エラー箇所をクリックすることにより、入力帳票でエラーのある箇所にジャンプできます。

なお、警告の場合はエラーコードに「警告」と表示されます。この場合はデータに不備があることにはなりませんので、必要に応じて修正して下さい。一方データ入力上で不備があると判断されるのはエラーで、その場合にはエラーを解決する必要があります。

入力帳票では、エラー・警告の対象となったセルに色がついています。エラーの内容に応じて表示色が決まります。

データチェック処理は以下の順序で行われます。
① 各セルごとのエラーチェック(データ型、桁数など)
② 相互に関連するセルに矛盾がないか(納入部品とそれに含まれる構成部品の質量チェックなど)をチェック
その際、チェック①でエラーが発生した場合、チェック②は行わず、エラーチェック処理を終了します(パフォーマンス向上のため)。このため、一度目のエラーチェックで①のエラーが発生した場合、②のエラーがあったとしてもエラーメッセージは表示されません。
従って、エラーの原因を全て修正し、再度エラーチェックを行った後、初回とは異なるエラー(②のエラー)が表示される場合があります。その場合はエラーメッセージが表示されなくなるまで(エラーのみ。警告については必要に応じて)修正とエラーチェックを繰り返します。

例

材料質量に"A"と入力された入力帳票には以下の二つのエラーが含まれています。

エラー1 材料質量に数字ではなく文字が入っている　(各セル毎のエラー)
エラー2 材料とその親部品の質量が一致しない　(相互に関連するセル間のエラー)

このような場合、エラーチェックではエラー1 のみが表示され、エラー2 は表示されません。エラー1 の原因を修正して初めてエラー2 のチェックが行われ、修正前とは異なるエラーメッセージが表示されます。
チェック処理中に「MESSAGE」シートの上部にある「チェック中断」ボタンをクリックすると、チェックの途中で処理を中断させることができます。チェックが止まると、そこまでの間に検出されたエラーや警告が「MESSAGE」シートに表示されるため、その場で修正をすることができます。再度「入力データのチェック」ボタンを押すと、エラーチェックが最初から行われます。データや使用しているコンピューターによっては、ボタンを押してから実際にエラーチェックが止まるまでに数分かかる場合があります。

操作

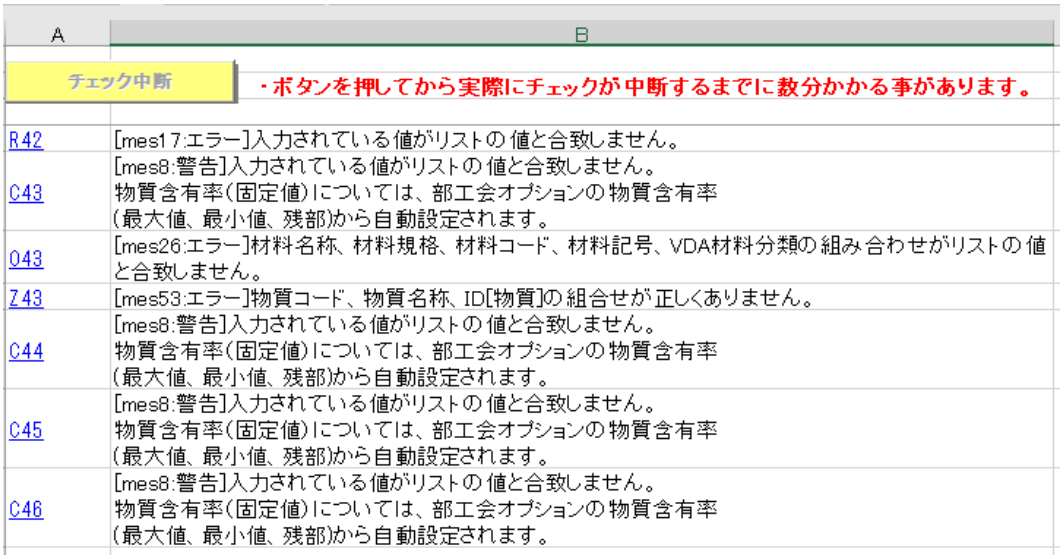
◎ 「入力データのチェック」ボタンを押す

「入力データのチェック」ボタン

エラーチェック処理が開始されます。

◎ チェック結果の確認

MESSAGE シート



エラーが一覧表示されています。

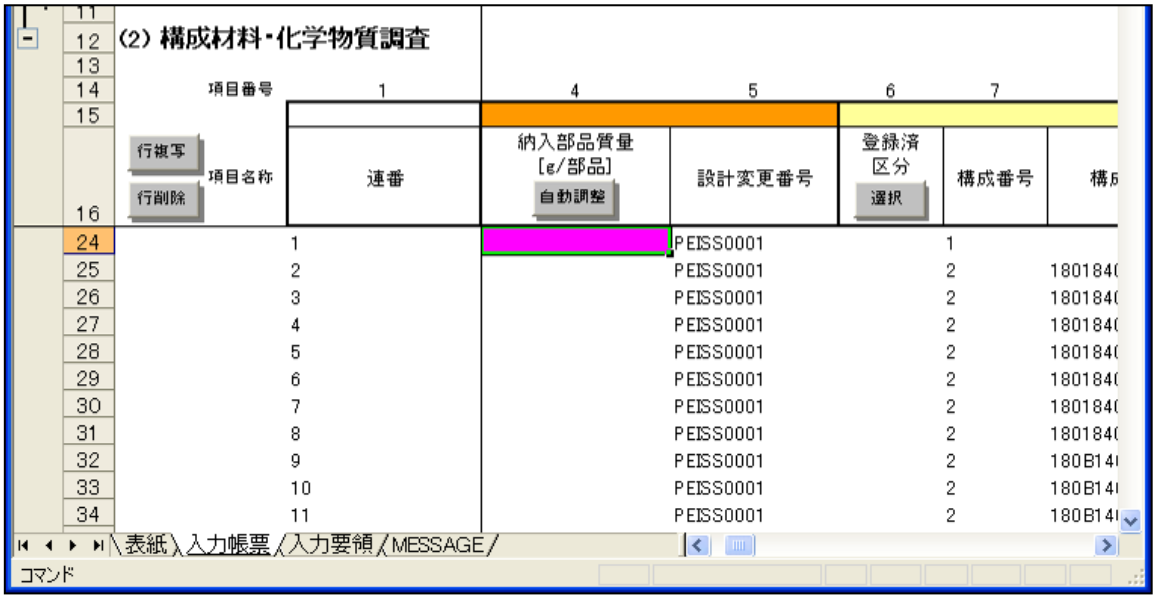
MESSAGE シートの列 A がエラー箇所を表し、エラーのあるセルへのリンクになっています。

列Aのリンクをクリックすると入力帳票にジャンプします。

エラー一覧の表示順は行番号>列番号です。エラー一覧を並べ替えた場合でもリンク先は変更されません。
エラー行が複数の場合、エラー箇所の行(A, B, C…)＞列(1,2,3…)の順に並び替えされています。

◎ エラーの修正

入力帳票へジャンプ



入力帳票にジャンプすると、エラーのあるセルが選択されており、同セルに色がついています。

エラーメッセージおよびエラー表示色を元にエラーの修正を行います。

■ エラーチェック表示色に関する補足

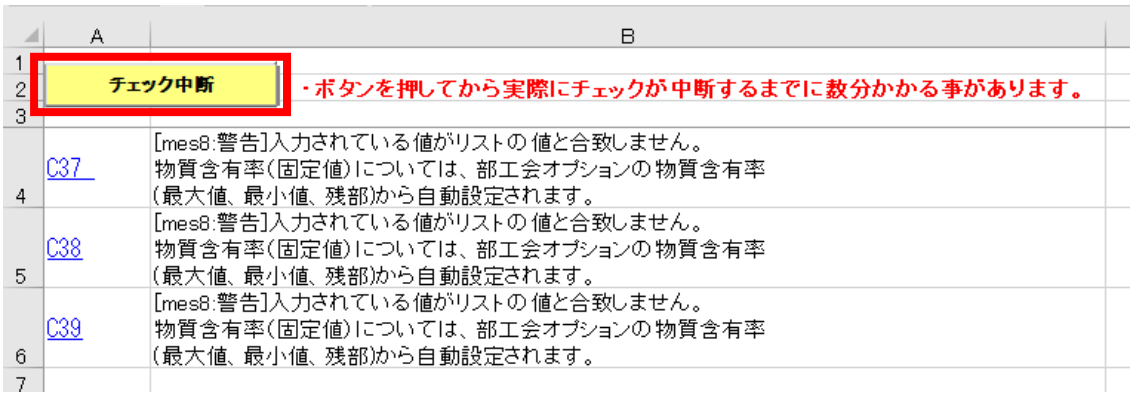
エラーチェック表示色は以下の通りで、表示の優先順位は上位の方が高くなります。同一のセルに複数のエラーがある場合には上位の色が表示されることになります。

赤色	入力必須項目であるが、データが入力されていない
黄色	入力されたデータが正しくない (データ型の不一致、桁数が範囲を超える、数値が範囲を超える、選択リストにない等)
水色	データの入力位置が正しくない (例えば部品に対して入力すべきデータであるのに、材料に対して入力しているような場合)
青色	入力した数値の相関関係が正しくない
オレンジ色	他の行に同一品番のデータがあるが、入力されたデータが一致していない
緑色	上述以外のエラー
灰色	警告

◎ 「チェック中断」ボタンを押す

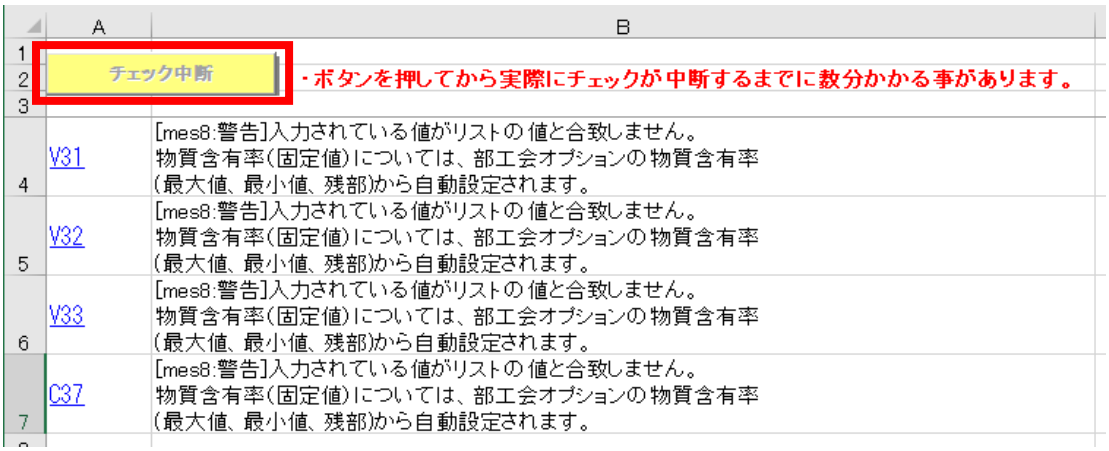
「入力データのチェック」ボタンを押してエラーチェックが行われている途中に「チェック中断」ボタンを押すことで、チェック処理の終了を待たずに中断させることができます。

「チェック中断」ボタン

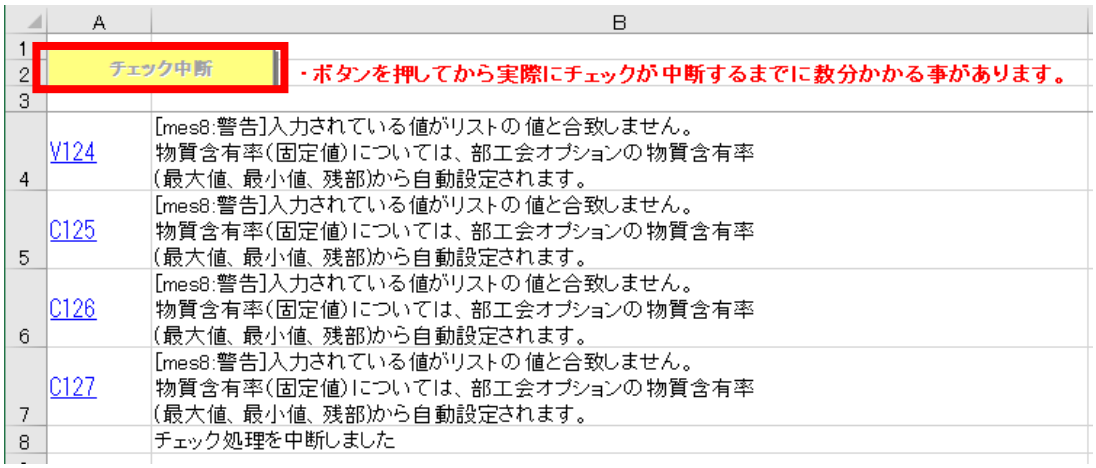


チェック処理中の状態によってはボタンが押せないタイミングもあります。

中断している間はボタンの文字がグレーに変わります。



中断すると、メッセージの最終行に「チェック処理を中断しました」と表示されます。



メッセージ一覧

[mes1:エラー]	少なくとも 1 文字の無効な文字があります。入力は半角英数字で行って下さい。
[mes2:エラー]	文字の桁数が有効範囲を超えています。
[mes3:エラー]	この項目は入力必須項目です。
[mes7:エラー]	同一品番のデータは同じデータである必要があります。
[mes8:警告]	入力されていたデータを自動設定にて上書きしました。物質含有率(固定値)については、部工会オプションの物質含有率 (最大値、最小値、残部)から自動設定されます。
[mes9:エラー]	末端の部品には必ず材料が必要です(ただし、登録済データは除く)。
[mes10:エラー]	同一品番のデータは同じ部品名称である必要があります。
[mes11:エラー]	この項目は同一部品につき最初の行のみ入力します。
[mes12:警告]	下位部品、下位材料の質量合計と納入部品質量/構成部品質量の差が最大偏差を超えています。
[mes14:エラー]	正の数値を入力して下さい。
[mes15:エラー]	同一品番のデータは同じ設計変更番号である必要があります。
[mes16:エラー]	構成部品番号と構成部品名称の少なくとも構成部品名称を入力する必要があります。
[mes17:エラー]	入力されている値がリストの値と合致しません。
[mes18:エラー]	同一品番のデータは同じデータである必要があります(ただし、構成部品数は除く)。
[mes19:エラー]	この項目には 1 以上の整数を入力して下さい。
[mes20:エラー]	納入部品の構成番号は 1 を入力して下さい。
[mes21:エラー]	構成に矛盾があります。(例:「2」の下に「4」がくるような、間があいていることはありません)
[mes22:エラー]	登録済区分が入力されている場合には、構成部品番号は入力必須項目です。
[mes23:エラー]	構成部品数量単位が"each"の場合には、構成部品数は正の整数を入力して下さい。
[mes24:エラー]	構成部品数量単位が"each"以外の場合には、構成部品数は正の数値を入力して下さい。
[mes25:エラー]	構成材料には必ず物質の登録が必要です(ただし、支給材料は除く)。
[mes26:エラー]	材料名称、材料規格、材料コード、材料記号、VDA 材料分類の組み合わせがリストの値と合致しません。
[mes29:エラー]	構成材料情報のいずれかが入力されている場合には、この項目は入力必須項目です。
[mes30:エラー]	材料が複数の物質を持つ場合には、その材料の全ての行に同じ材料名称が入力されている必要があります。
[mes31:エラー]	材料が複数の物質を持つ場合には、その材料の全ての行に同じ材料商品名が入力されている必要があります。
[mes32:エラー]	材料が複数の物質を持つ場合には、その材料の全ての行に同じ材料規格が入力されている必要があります。
[mes33:エラー]	カンマ(",")で始まる材料規格は無効です。
[mes34:エラー]	カンマ(",")で終わる材料規格は無効です。
[mes35:エラー]	カンマ(",")を連続して入力したり、カンマ(",")とカンマの間にスペースを入力することはできません。
[mes36:エラー]	VDA 材料分類が 1.x～4.x の場合には、材料コードは入力必須項目です。
[mes37:エラー]	材料が複数の物質を持つ場合には、その材料の全ての行に同じ材料コードが入力されている必要があります。
[mes39:エラー]	ワイルドカード($)には適切な文字列を入力する必要があります。(空白文字は利用できません)
[mes40:エラー]	ワイルドカード(@)には適切な文字列を入力するかもしくはワイルドカード(@)を削除する必要があります。(空白文字は利用できません)
[mes41:エラー]	VDA 材料分類が 5.x の場合には、材料記号は入力必須項目です。
[mes42:エラー]	材料が複数の物質を持つ場合には、その材料の全ての行に同じ材料記号が入力されている必要があります。
[mes44:エラー]	構成材料情報のいずれかが入力されている場合には、この項目は入力必須項目です。
[mes45:エラー]	材料が複数の物質を持つ場合には、その材料の全ての行に同じ VDA 材料分類が入力されている必要があります。
[mes47:エラー]	物質が入力されている場合には、この項目は入力必須項目です。
[mes48:エラー]	物質が入力されていない場合またはワイルドカードが指定されている場合には、この項目は入力不可です。

[mes53:エラー]	物質コード、物質名称、ID[物質]の組み合わせが正しくありません。
[mes55:エラー]	同一の材料内に同じ物質を複数登録することはできません。
[mes56:エラー]	CAS_RN の形式が正しくありません。
[mes57:エラー]	リストにない物質を手入力する場合には、物質コードに「Not found:XXXX-XX-X(CAS_RN)」は入力必須項目です。
[mes59:エラー]	1 材料あたりの物質含有率の合計は 100%でなければなりません。
[mes60:警告]	1 つまたは複数のワイルドカード物質の合計(または合計の最大値)が 10%を超えています。
[mes61:エラー]	0 より大きく 100 以下の値を指定して下さい。
[mes64:エラー]	ポストコンシューマリサイクル材料の割合とプレコンシューマリサイクル材料の割合の合計が 100%を超えています。
[mes65:エラー]	プレコンシューマリサイクル材料の最小値が最大値を超えています。
[mes66:エラー]	ポストコンシューマリサイクル材料の最小値が最大値を超えています。
[mes67:エラー]	VDA 材料分類が 1.x、2.x、3.x、4.x、5.x、7.1、7.2 の場合には、この項目は入力必須項目です。
[mes68:エラー]	この項目は同一材料につき最初の行のみ入力します。
[mes69:エラー]	0 以上 100 以下の値を入力して下さい。
[mes70:エラー]	部品が以下のような材料を含む場合には、この項目は必須になります。1)材料分類 5.1.x、5.4.x、5.5.x の合計質量が 100g を超える樹脂材料または 2)材料分類 5.2、5.3 の合計質量が 200g を超えるゴム材料
[mes72:エラー]	この項目で入力可能な値は、"Y"または"N"または"N/A"です。
[mes74:エラー]	アプリケーションを指定して下さい。
[mes75:エラー]	物質と材料の組み合わせに対して、このアプリケーションは無効です。
[mes76:エラー]	この物質に対してはアプリケーションを入力する必要はありません。
[mes79:エラー]	物質含有率の最小値が最大値を超えている、もしくは等しくなっています。
[mes80:エラー]	同一品番のデータは同じ構成部品数量単位である必要があります。
[mes81:エラー]	材料が複数の物質を持つ場合には、その材料の全ての行に同じ調査元材料記号が入力されている必要があります。
[mes82:エラー]	材料が複数の物質を持つ場合には、物質含有率の残部は一つしか指定できません。
[mes83:エラー]	この項目は物質の行にのみ入力可能です。
[mes84:エラー]	リストにない物質を手入力する場合には、ID[物質]は入力不可です。
[mes85:エラー]	正しい日付のフォーマット(YYYY/MM/DD)で入力して下さい。
[mes101:エラー]	物質を入力する場合には材料が必須です。
[mes102:エラー]	登録済区分=2,3 の場合には、その部品は末端部品である必要があります。
[mes103:エラー]	登録済区分=1 の場合には、参照元のデータがシート内にある必要があります。
[mes104:エラー]	この項目には「*」「/」の指定は出来ません。
[mes105:エラー]	「*」「/」が指定されている項目にデータを入力しています。
[mes106:警告]	空白行以降にデータが存在します。
[mes107:エラー]	この項目は納入部品に対しては入力できません。
[mes108:エラー]	この項目は材料に対してのみ入力可能です。
[mes109:エラー]	同一品番のデータは同じ構成部品数量である必要があります。
[mes110:エラー]	残部の値は"1"のみ有効です。
[mes111:エラー]	納入部品の構成番号は 1 を入力して下さい。
[mes112:エラー]	範囲値(物質含有率の最小値、最大値)が入力されている場合には残部の指定はできません。
[mes113:警告]	含有率の範囲値の差が許容値を越えてはなりません。
[mes114:エラー]	材料が複数の物質を持つ場合には、その材料の全ての行に同じ社内材料コードが入力されている必要があります。
[mes115:警告]	材料-物質情報が外部リストの内容と一致していません。値を削除しました。

[mes116:エラー]	同一レベルの部品内に同じ ID[材料]を複数登録することはできません。
[mes119:警告]	物質を入力していない行のため、プロセスケミカルの存在形態を自動削除しました。
[mes120:警告]	入力した物質はプロセスケミカルではないため、プロセスケミカルの存在形態を自動削除しました。
[mes121:エラー]	プロセスケミカルの存在形態には 1、2、3 のいずれかを入力して下さい。
[mes122:エラー]	入力した物質はプロセスケミカル(一般的に、製造工程の中で揮発したり、他の物質に変化したりする物質)のため、プロセスケミカルの存在形態を入力する必要があります。
[mes123:警告]	不要な半角スペースを削除しました。
[mes125:警告]	材料規格/材料コード/材料記号/ポストコンシューマリサイクル材料の割合//物質(ID[物質]と含有率の組み合わせ)が同じ材料が、同一構成部品に 2 つ以上追加されています。1 つにまとめるべきかもう一度確認して下さい。
[mes126:警告]	同一レベルに部品と材料が配置されています。必要に応じ、材料の上位に形式的なダミー部品を追加設定してください。
[mes130:エラー]	殺生物目的を指定してください。
[mes131:警告]	ID[物質]に値が入っていないか、殺生物目的の指定が不要である物質であるため、値を自動削除しました。
[mes132:警告]	VDA 材料分類が 5.x または 6.x ですが、添加剤が指定されていません。
[mes133:警告]	文字の桁数が有効範囲を超えています。
[mes134:警告]	入力されている値がリストの値と合致しません。
[mes135:警告]	材料名称、材料規格、材料コード、材料記号、VDA 材料分類の組み合わせがリストの値と合致しません。
[mes136:警告]	カンマ(",")で始まる材料規格は無効です。
[mes137:警告]	カンマ(",")で終わる材料規格は無効です。
[mes138:警告]	カンマ(",")を連続して入力したり、カンマ(",")とカンマの間にスペースを入力することはできません。
[mes139:警告]	ワイルドカード($)には適切な文字列を入力する必要があります。(空白文字は利用できません)
[mes140:警告]	ワイルドカード(@)には適切な文字列を入力するかもしくはワイルドカード(@)を削除する必要があります。(空白文字は利用できません)
[mes141: エラー]	物質の含有率を範囲指定する場合は、最小値と最大値の両方を入力する必要があります。
[mes142: 警告]	ID[物質]の変換ができませんでした。
[mes201:エラー]	外部リストファイルが見つかりません。JAPIA 統一データシートと同じフォルダに外部リストファイルを置いて下さい。
[mes203:エラー]	外部リストファイルの読み込みに失敗しました。ファイルが正しいかどうか確認して下さい。
[mes204:エラー]	未登録の外部リストです。外部リストのバージョンを確認して下さい。
[mes205:エラー]	外部リストの有効期限が過ぎています。調査元会社へ確認して下さい。
[mes206:エラー]	JAPIA シートに登録されている外部リスト情報の形式が誤っています。

3.7　入力したデータを削除する(一括クリア)

「一括クリア」ボタンを押すことで、入力帳票に入力した全ての値を削除することができます。

操作

◎　「一括クリア」ボタンを押す

入力帳票シート

「入力された全ての値を削除します。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。

「はい」を選択すると、入力帳票の値が削除されます。

4 データを出力する(CSV ファイルの出力)

「CSV ファイルの出力」ボタンを使用すると、JAPIA シートの内容を CSV ファイルへ出力することができます。
CSV ファイルへ出力する際に、JAPIA シートの内容に付加情報が加えられて最終的な CSV ファイルが完成されます。
各データは「“」(ダブルクォーテーション)にて囲まれます。
各データの区切り文字には「,」(カンマ)を使用します。
CSV ファイルで出力したファイルを Excel で開いて保存すると自動的にダブルクォーテーションの削除等が行われるため、JAPIA シート上に再度取り込むことができなくなります。
データのレイアウトは以下の通りです。

- 1 行目　　データ識別子「C」、「帳票のバージョン」、「変換日付」、「エラーチェック結果」、「調査元固有情報」、「外部リストファイル名」
- 2 行目　　データ識別子「H」、「基本情報調査」の内容
- 3 行目以降　データ識別子「D」、「納入部品、構成部品、構成材料、物質、リサイクル、その他、部工会オプション」の内容
- 「納入部品、構成部品、構成材料、物質、リサイクル、その他、部工会オプション」項目の並びは JAPIA シートに準じます。

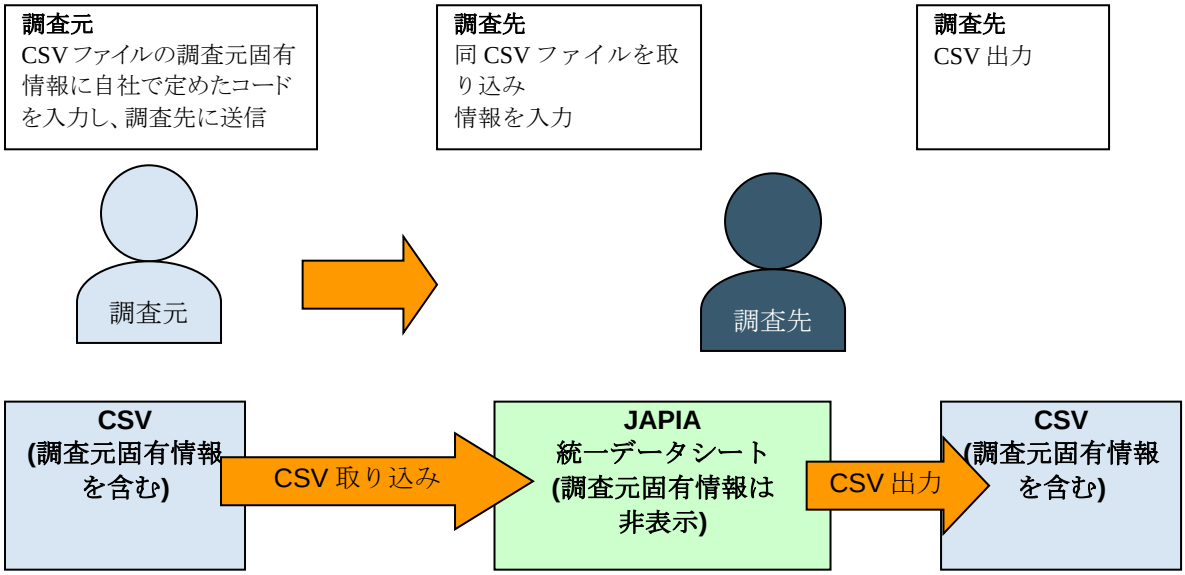
CSV ファイル出力イメージ

```
"C","Ver.4.00","2020/05/30","正常終了","","" EXLIST-2020-05-01JP.xlsx”
"H","1234","0001","2014/12/05","2014/11/30"
"D","1","1234568980","ASSY","100","S123-23","","1","","","",…(省略)
"D","2","1234568980","ASSY","","S123-23","","2","1111111111",…(省略)
"D","3","1234568980","ASSY","","S123-23","","2","1111111111"…(省略)
"D","4","1234568980","ASSY","","S123-23","","2","1111111111", …(省略)
```

- 調査元固有情報について

  1 行目 5 カラム目の「調査元固有情報」は値が入っておらずダブルクォーテーションマークのみ(“”)が記述されている場合)があります。値が入るのは**「調査元固有情報」が入力された CSV ファイルを取り込み、JAPIA シート上で情報を入力し、その情報を CSV 出力した場合**です。

例



CSV ファイルの取り込みについては 86 ページ「他社からのデータを取り込む(CSV ファイルの取り込み)」をご覧ください。

■ 外部リストファイル名について

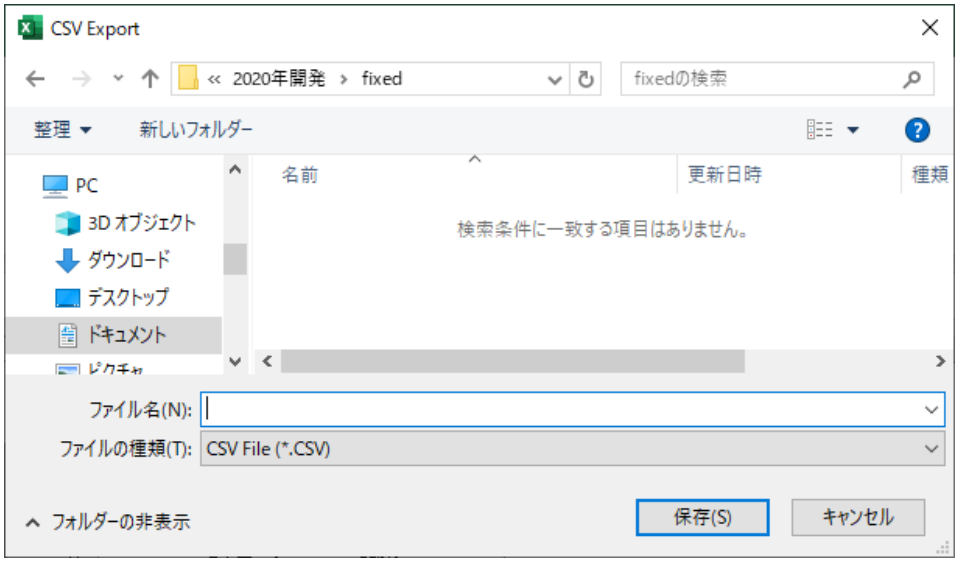
1 行目 6 カラム目の「外部リストファイル名」は CSV 出力時のエラーチェックに使用された外部リストのファイル名が記述されます。外部リストが存在しないときに CSV 出力を行った場合は"Not Found"と記述されます。

操作

◎ 「CSV ファイルの出力」ボタンを押す

◎ ファイル名・保存先の決定

CSV ファイル出力画面



この操作の直前に CSV ファイルを取り込み、または出力していた場合、その際に使用した CSV ファイルが保存されているフォルダ、および同じファイル名が自動的に選択されています(「一括クリア」ボタンを使用した場合はフォルダ名のみ)。直前に取り込み・出力を行っていない場合は、JAPIA シート本体と同じフォルダとファイル名が表示されます。

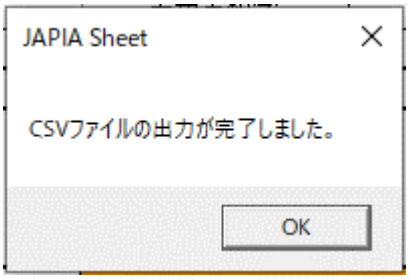
CSV ファイル出力画面にてファイル名・保存先を決定し、「保存」を押します。

自動的にエラーチェック、ファイルの出力が行われるので、完了まで待ちます。

既に出力先フォルダに同名のファイルが存在している場合は、ファイルの上書きに対する警告が表示されます。

◎ 処理の完了

メッセージ



処理の完了を知らせるメッセージが表示されるので「OK」を押します。

その後は出力先として指定したフォルダを開けば CSV ファイルが利用できます。

◎ エラーチェック

- 「CSV ファイルの出力」ボタンを押すと、ファイルの出力前に強制的にデータチェックが行われます。従って、調査元が CSV ファイル出力機能を利用する際には多数のエラーが表示されることになりますが、ファイルそのものは出力されます(調査元が全てのデータを入力するわけではないため)。
- CSV ファイルへの出力は事前のエラーチェックの有無に関わらず可能ですが、「エラーチェック結果」によってデータチェックの状況を記述します。内容は以下の通りです。
  - 正常終了　　データチェックを行い、何もエラーがなかった場合
  - 正常終了(警告あり)　　データチェックを行い、警告があった場合
  - エラーあり　　データチェックを行い、エラーが 1 件でもあった場合

5　他社からのデータを取り込む(CSV ファイルの取り込み)

「CSV ファイルの取り込み」ボタン

CSV ファイル出力機能を利用して生成された CSV ファイルは、逆に JAPIA シートに取り込むことができます。JAPIA シートでは、JAMA/JAPIA 統一データシート Ver.2.01 以降で作成された CSV ファイルを取り込むことができます。

調査元あるいは調査先から送られてきた CSV ファイルを JAPIA シートに取り込むことで、JAPIA シート上でのデータの入力やデータのチェックが可能になります。

調査元固有情報は画面上には表示されませんが保持されます。

取り込む CSV ファイル内に含まれる ″ (ダブルクォーテーション)は制御文字として処理されるため、JAPIA シートに取り込んだ後は削除されます。データの内容にダブルクォーテーションが含まれる場合、エスケープシーケンスとして"" と記述する必要があります。

■　例　納入部品名称に　Part″ABC″ver1　と入力したい場合
CSV ファイル上は　″Part""ABC""ver1″　と記述します(最初と最後のダブルクォーテーションはデータ部分を識別するための制御文字)。

操作

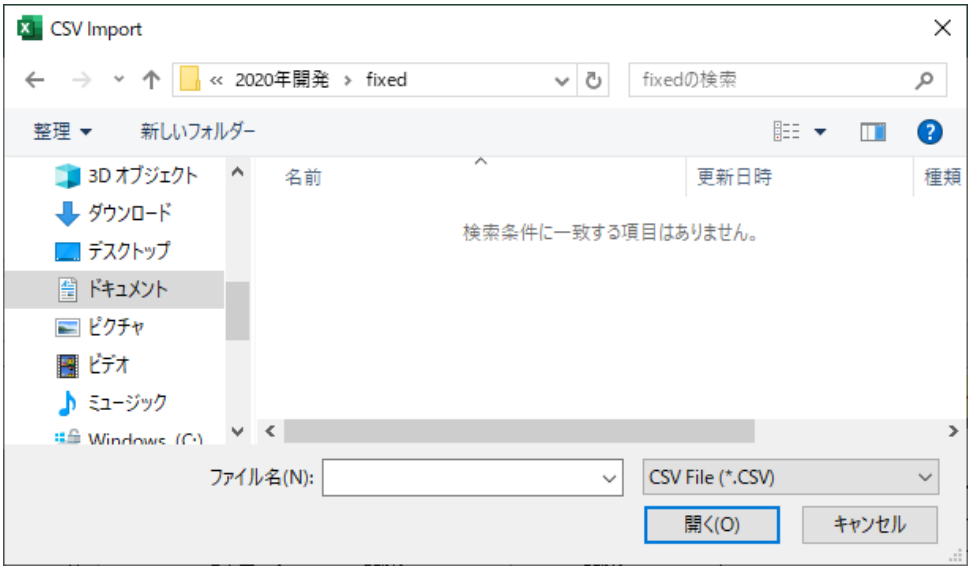
◎「CSV ファイルの取り込み」ボタンを押す

入力帳票

「CSV ファイルの取り込み」ボタンは「入力帳票」シートにあります。

◎ ファイル名・ファイルの場所の決定

CSV ファイル取り込み画面



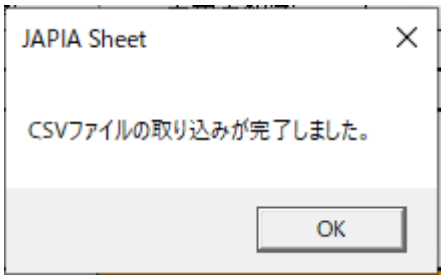
この操作の直前に CSV ファイルを取り込み、または出力していた場合、その際に使用した CSV ファイルが保存されているフォルダ、および同じファイル名が自動的に選択されています(「一括クリア」ボタンを使用した場合はフォルダ名のみ)。直前に取り込み・出力を行っていない場合は、JAPIA シート本体と同じフォルダが表示されます。

フォルダとファイル名を決定し、「開く」を押します。

JAPIA シートのバージョン整合性チェックが行われ、エラーがなければ自動的にデータの取り込みが行われるので、完了まで待ちます。エラーチェックについては詳細情報をご参照ください。

◎ 処理の完了

メッセージ

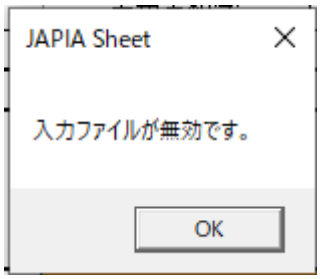


処理の完了を知らせるメッセージが表示されるので「OK」を押します。

その後は通常通りデータの入力が可能です。

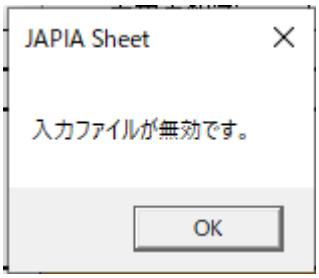
◎ エラーメッセージ

無効なファイルを取り込もうとした場合



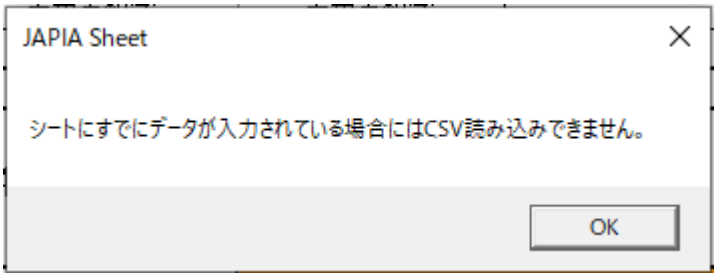
CSV ファイルと違うフォーマットのファイルを取り込もうとするとエラーが表示され、ファイルは取り込めません。

シートが保護されている場合



シートが保護されている場合はエラーが表示され、ファイルは取り込めません。

既にデータが入力されている場合



シートに既にデータが入力されている場合はエラーが表示され、ファイルは取り込めません。

「既にデータが入力されている場合」とは、以下のいずれかに該当する場合を指します。

- 基本情報が入力されている
- 入力欄の 1 行目に何らかの値が入力されている

このため、JAPIA シート入力欄の 1 行目が空白で 2 行目以下にデータが入力されていた場合、CSV データの取り込み処理が通常と同様に行われます。その際、取り込み後のデータ行数が下のデータ行数より少ない場合は下のデータがシート上に残ります。CSV ファイル取り込みの際は入力欄の全ての行が空白行になっているかどうかご確認ください。

なお、「一括クリア」ボタンを使用すると、入力帳票の値が全て削除されるため、そのまま CSV ファイルを取り込むことが可能です。

例

1 行目が空白、2～４行目にデータの入った入力帳票

連番	納入部品	構成部品	材料	物質	…
2	X	1	A		
3	X	1	B		
4	X	2	C		

この表より行数が少ない CSV ファイル(この例では３行)を取り込んだ場合、取り込み前のデータが残ります。

連番	納入部品	構成部品	材料	物質	…
1	Y				
2	Y	5	M1		
3	Y	5	M2		
4	X	2	C		

取り込み後のデータ
(１～３行目)

取り込み前のデータ
(４行目)

来歴

来歴	改正日	適用 Ver.	改正内容
ー	2018/10/01	3.00～	JAMA/JAPIA 統一データシート Ver.3.00 に合わせ修正した。
ー	2019/10/01	3.02～	JAMA/JAPIA 統一データシート Ver.3.02 に合わせ修正した。
N	2020/05/01	4.00～	JAPIA 統一データシート Ver.4.00 に合わせ修正した。
1	2020/10/01	4.01～	基本情報 記入者欄の「調査元」を「調査元または調査先」に変更、誤記訂正、エラー/警告メッセージの 77,78,127～129 を削除。変更履歴を来歴に変更し、表のフォーマットを変更、フッターの「Copyright(C) DXC Technology 2020」を削除した。
2			
3			
4			
5			